

カッテカイシャクの大百科別冊

矢田まさる登場10周年記念同人

矢田まさるを 一生楽しむ本

～矢田まさるほぼ全台詞集～

編・馳川 HTB

序

矢田まさるとは、藤原はづきの嫁である。もとい、婿である。

……その一部分だけで、彼の意義を捉えるのは早計である。

『おジャ魔女どれみ』シリーズは、魔法という（非日常）的なものを扱うが故に、子供の目線に立ったりアリティ溢れる（日常）描写に重きを置いた。その結果、メインターゲットのみならず幅広いファン層を引き付け、今日がある。特に、主人公の通う小学校のクラスの設定は、あらかじめ多くのスタッフの子供時代の友達の記憶を元に構成されていた。それ故に、クラスメートのエピソードは我々の普遍的な思い出を想起させ、多くの感動を生んでいる。

だが矢田まさるとについては、少々勝手が違っている。ソニー・マガジンズ発行のA X B O O K 『おジャ魔女どれみ ㊦』収録の、佐藤順一・五十嵐卓哉両シリーズディレクター（※佐藤氏は無印のみ担当のインタビュー記事によれば、3年2組の中で彼だけは元となるエピソードを持たないという。

佐藤 矢田くんはモデルがいないんだよね。不良はどうしてもクラスに一人は欲しいということになって作られたキャラなんですよ。まあ、不良っていつでも小学生なんですけどね。中学生をポコにしたとか言っちゃいましたけど（笑）。

五十嵐 中学生をポコにできるけど、オバケは怖い（笑）。完全無欠っぱいのに、やっぱり子どもっていいのがいいですよね。（後略）

また同インタビューでは「キレない子供を作ろう」という、シリーズ構成の山田隆司氏のポリシーが五十嵐氏の口から語られている。これについては、たかなし♥しずえ氏のコミカライズ版である、講談社のKCデラックス『おジャ魔女どれみ㊦』に巻末収録された山田隆司氏インタビューにおいて詳しい。

山田（前略）それに、子どもたちを巻き込んだへんな事件が多くなっている、キレる子っていうのがクローズアップされていた時期だったんですよ。ぼくはそれが事件としても、言葉としてもいやだったし、新聞とか報道を見まして、そついう子を作っちゃいかん、と思っただけです。それには、子ども番組から少しずつ直していかなきゃいけないのかなと。それまでは自分もちよつといきすぎたような作品ばかりやってきたので、このへんで腰をすえて、キレない子を作るということに取り組んでみよつと思いました。

これを佐藤順一氏は、前掲のシリーズディレクターインタビューでこう解釈している。

佐藤（前略）あと、山田さんが言うキレない子っていうのは、ぼくはちゃんと我慢のできる子のことだと思ってるんです。我慢ができるっていうのは大事ですよ。例えば、自分の子どもと道を歩いていて、抱っこしろってワーツと泣き始めることがあるじゃないですか。そんな時「来ないと置いてくぞ」って言うと、通りがかりのおぼちゃん「小さいんだから抱っこくらいしてあげればいいのに」って言うわけですよ。でも、ぼくはそれはダメだと思ってるんです。小さい時から、理不尽な我慢をたっぶりして我慢に慣れていないと。そろそろ物心ついたから我慢しろっていきなり言われてもできない。だから、小学校に上がった子が40分座っていられなくて騒いだりするんですよ。そして、思い通りにならないとキレたりする。だから、どれみは上手に我慢ができる子にしたい、と。山田さんが「世界一不幸な美少女」ってフレーズを作ったわけですが、それを端的に表して、どれみはそんなことを言っただけで自分慰められる、我慢できちゃう子なんです。ステーキを食べられなくても我慢できるんですよ。

しかし、矢田まさるとは決して「キレない子」ではない。自分の大切なものを侮辱され傷付けられれば、言葉で反論することなく、躊躇なく拳を振り下ろす。コミュニケーション能力に欠けた、粗暴な側面を持つことは否定できない。

ならば何故、スタッフの思い出というバックボーンを持たぬまま、「不良」の存在をクラスに求めたのか。

それは、『おジャ魔女どれみ』という作品が、〈わたしたち〉の秩序に反する渾沌を〈あいっら〉として排除する、単純で美しいが危険極まりない世界観から解放せんとした、そのポリシーにあるのではないだろうか。

現在は『フレッシュユプリキユア!』に企画としてスタッフに名を連ねる、関弘美プロデューサー(当時)も、佐藤・五十嵐シリーズディレクターも、無印6話「ウソつきは友情の始まり」はお気に入り、かつ最大に苦労したのだという。単純にウソつきな子を魔法で懲らしめるのではなく、どんな救いがあるのかを考えた。本話の主人公である横川信子もまたコミュニケーション下手な子供だったが、ついにはいけないウソと面白いウソがあると学ぶことで、学芸会の劇の脚本を書くまでにクラスにその個性を受け入れられた。

この話が、『おジャ魔女どれみ』の作風を決定づけた。3年目に登場させた、帰国子女で日本語が不自由な飛鳥ももこ、そして不登校児童の長門かよこ。彼女たちを、いかにして迎え入れるか、異なるものとの衝突から逃げずに描こうとした姿勢が、本作を支えている。

ならば矢田まさるに与えられた役割もまた、「キレる子」を如何に受け止め、どう育てていくかを視聴者に見せることにあつたのではないかと。コミュニケーション能力の欠如した男子が、どうやって学校生活に溶け込み、どう大人になつていくか、それを描こうとしたとも言えるのではないかと。

それを確かめるべく、本書では『ナ・イ・ショ』を含む全5シリーズ、登場人物たちが作中で過ごした小学校生活4年間において、矢田まさるの全ての出番、全ての台詞を採取し、その意義を求めることに挑戦した。

クラスメート全員が主人公になれる程の個性を持っていた、と言い切れる程ではないが、それでもそれに肉薄できる物語が彼に与えられていたと信じ、本書を上梓する。

目次

第1章 登場人物紹介

1 矢田まさる 5

2 関係者 6

第2章 矢田まさるの台詞・会話集

1 小学3年生編 9

2 小学4年生編 23

3 小学5年生編 34

4 小学6年生編 50

あとがき 64

第1章 登場人物紹介

1 矢田まやな

概要

美空市立第一小学校3年2組、4年2組、5年1組、6年1組所属。部活動はやっていない。教室では4年間ずっと、廊下側の一番後ろの席。

CDドラマでのパラレル設定では、血液型はOオーマナス。

緑色の髪はやや伸び気味で、額から跳ね毛が一本生えている。紫色の長袖のシャツを腕まくりし、茶色の長ズボンに4年間ずっと丈が余っていた。

口癖は「別に」で、全215話中で19回、CDドラマで2回口にしました。

性格

口下手で照れ屋。その無愛想な言動故か幼稚園の頃から誤解され、問題児扱いされている。本当は優しいとはづきは語るが、相手から裏切られたと感じた時は、関先生だろうとはづきだろうと辛く当たってしまう。

ケンカっ早い、その暴力は訳もなく振るわれることはない。長谷部たけし登場後は専ら彼とケンカしているが、ただ胸倉をつかみ合うだけではなく、子供じみた意地の張り合いをすることも。

ケンカ絡みでは短気な反面、時に鋭い観察眼も披露する。マジョルカの魔法グッズの悪影響や、中山しおりが流した涙、岡島小太郎の負傷などにいち早く気付きフオローを入れる。しおりが急病で倒れた際も、冷静な判断力を見せた。

勿論そのサポート特性が発揮される相手は大抵はづきなのだが、常日頃べったりなわけではない。#で彼女がどれみとケンカした際や、学芸会で監督として空回りした際は、別段はづきのために積極的には動いていない。だがしおりを気遣い続けたドッカーン！9話では、最後の最後ではづきの曲を吹いた。

別段付き合いが悪いことはなく、小竹らとは普通に校庭で遊ぶ。女子に囲まれても平気だが、主にはづきに涙目で見つめられるのは苦手。学級委員選挙、学芸会、キャンプ等の活動にも積極的に参加。秘密基地騒動にも混ざっていた。

お化けの類は苦手で、夏休み最後の山内寺怪談・肝試しでは、3、4、5年と腰を抜かし続けた。はづきから教わったおまじない「マジョリカ」を延々と叫び続けるのも恒例で、最後までお化け克服は出来なかった。だが、別にミイラが出てくるような本が読めないわけではない。

CDドラマでのパラレル設定では、重症の状態だろうと常にトランペットを持っていないと不安と言うが、現実には修学旅行にもトランペットを持ち込んでいた。また22歳にして、注射は嫌いだと駄々をこねた。さらに、学芸会の役柄でも同様だが、誰かの助けに入る際は必ずトランペットを吹く。

特技

持ち楽器は、父から受け継いだトランペット。楽器が設定されているのは、MAHO堂全6名以外では彼だけ。持ち曲は、はづきの曲である「キラキラ星」。CDドラマでは、22歳にして「人気ジャズトランペッター」になっていたが、実際の腕は6年時に「春が来た」を練習する程度で、あいこ曰く「大して進歩してへんなあ」。ただし肺活量に関しては、少なくともフジオよりは上。

戦闘力も高く、3年生の時点で中学生3人程度をホコボコにできる。顔など、服から見える肌には傷一つないため、小学生離れた格闘能力を有していることは間違いない。ケンカで武器を持たない主義で、足や関節技を使うらしい。勉強は基本的に苦手だが、授業を全く聞いていないわけではない。運動に関しては、長谷部との張り合いで「スポーツ万能」と言い放つが、サッカーやバスケなどのシーンでは真面目にプレーしている。剣道も真面目に練習していたが、本番で竹刀を投げパンチを打つという反則をしかしてしまふ。

幼稚園時代

春風どれみ、藤原はづきと同じソナチネ幼稚園に通う。#19話によれば、太田ゆたか、岡田ななこ、工藤むつみ、小泉まりな、小竹哲也、佐川ゆうじ、島倉かおり、杉山豊和も同じ園生だった模様。

藤原はづきが公園で遊んでいた時、転んで怪我をした際彼女を助け、家までおぶって送り届ける。また祭りの屋台で手に入れた宝物の鳩笛を、帽子を失くして泣いているはづきにゆずっている。「本当は優しい子」というのはづきの発言は、これらの思い出から来ている。

声優

飛鳥ももこ役としてレギュラー声優に加わる前から、宮原永海氏が担当。日本語、英語、ドイツ語を操るトライリンガルで、歌手としても活躍中。代表作は、TVアニメ版『守護月天！』山野辺翔子（二代目）役など多数。

2 関係者

矢田の父

無印17話に登場。幼稚園の頃ドイツに単身赴任し、少なくとも小5の夏休みまでは転勤したまま。トランペットをゆずり、母を息子に託す。その衣服、佇まいは矢田のそれにそっくりで、父に憧れ矢田はあの格好をしている模様。声優は平田広明氏。後に、息子と同じ声優の飛鳥ももこの父親役も担当する。

矢田の母(実母)

未登場。矢田が幼稚園の頃交通事故で亡くなった。このことと、継母のことで変に気を遣われてしまい、矢田は母の日が嫌いになってしまっていた。

矢田の母(継母)

矢田の父の再婚相手。息子との関係は至って良好。無印17話で、教頭の口からその存在が語られる。息子が警察に捕まっても、「ウチの子は間違ったことはいません」と言ってニコニコしていたようだ。後、#15話で登場。しおりのために授業をボイコットし、挙句無限欠席した息子を心配し、駆け付ける。後、母の日当日に、ペチュニアの鉢植えを贈られる。エンディングクレジットに名前が載らなかったため、声優は不明。#15話参加のどなたが兼役したと思われる(著者にはドド役の徳光由禾氏に聞こえたが、確信はない)。尚、ももこの母役の宮下富三子氏は同話に参加されていない。

藤原はづき

矢田の幼馴染み。幼稚園時代、何度か彼に助けられる。無印の頃は人前では「矢田くん」と呼んでいたが、#以降は幼稚園の時同様「まさるくん」で定着。

無印時代はさほど意識していなかったようだが、#の頃は周りから冷やかされ、自身も理想のカップル、ラブラブなど思わず口走る程になる。

とはいえ、自身の誕生日でもある2月14日では、小1の時の事件がきっかけで矢田にバレンタインチョコを渡せずにいた。だが5年時にどれみの応援で、幼稚園の頃のように矢田と誕生日プレゼントの交換をするようになった。

矢田の優しさを誰よりも知る人物だが、しおりが入院した時はその優しさが自分以外の相手に向く理由を、ギリギリまで理解できずにいた。

矢田、ももこ同様、お化けが大の苦手。あいこの言葉がきっかけで「マジョリカ」というおまじないを発案、矢田を通じ男子にも浸透する。

矢田曰く「中学が違っても、今まで通り、幼馴染みで変わらない」そうだが、彼がはづきにとつて誰よりも近い異性であることも変わらない。

本編終了後は、本気でバイオリンを勉強するため、矢田やどれみと違う進路を選び、カレン女学院に進学する。

春風どれみ

はづきの幼馴染みで、MAHO堂ひいてはクラスの中心人物。勿論ソナチネ幼稚園出身で、はづきとほぼ同じくらい矢田との付き合いは長い様子。

矢田の家庭の事情や、訳もなく暴力を振るわないことを知っているなど、彼の隠れた理解者である。この花でお化け嫌いが治るとからかったり、はづきとの仲を冷やかしたり応援したりなど、友人として自然に接している。

妹尾あいこ

3年の1学期に美空小に転校してきた、大阪出身の自称・浪花っ子。

何でもズバズバ言う性格で、何度か矢田を「不良」と称したり、はづきとは「お似合いの夫婦」と言い切ったり。フジオに勝利した彼を感心したりもした。

瀬川おんぶ

3年の2学期に美空小に転校してきた、売れっ子のチャイドル。

どれみたちの仲間になった後は、普通に矢田とはづきの仲を茶化すだけでなく、二人のためを思った冷静な気配りを見せる。

飛鳥ももこ

5年の1学期初日に美空小に転校してきた、ニューヨーク出身の帰国子女。彼女が原因で矢田とはづきに亀裂を作ってしまうも、自身の努力もあり仲直り。二人をbest friendsと称する。

ハナちゃん／巻機山花

魔女の赤ちゃん。#CDドラマでは、矢田に「ハナちゃん」と呼ばれ抱かれたことがある。その際矢田のことが気に入り、喜んでいた。

その後、諸事情あり6年生の姿で、同級生として再会。修学旅行では同じ班になり、矢田からも班長として認められる成長を見せた。

関先生

小3から4年間、矢田のクラスの担任教師を勤める。その個性を持って余す児童たちを温かく指導する。一方叱る時は、誰もを震え上がらせる。

素直でない矢田を見守り、その信頼具合は教師の職を賭ける程。だからこそ彼のために、「口づぐんでスネても、誰もわかってくれない」、「コソコソ逃げ回るな」と厳しい言葉を浴びせる。本当のことを言えば、自分は受け止めると。

これ以来、矢田からは信頼されているようで、彼女の言葉は一応素直に聞く様子。だが授業でしおりを泣かせてしまった際は、少々すれ違いが生じた。

小学校の先生になるためピアノを隠れて練習した、子供の頃父を亡くしたことで父の日に辛い思いをしたなど、矢田と似通った経験が多い。

特技はチヨーク投げだが、あいに受け止められ、玉木にも技を真似される。矢田卒業後は、ニューヨークに転勤した恋人と結婚すべく渡米、アメリカで教師を続けていると思われるが……

教頭

美空小の教頭。本名不明。この手の学園物作品では典型的な、融通のきかない性格。無印17話では、確証もなく矢田が悪いと決めつけていた。ドツカ〜ン！17話では直接対峙、グラライダーの打ち上げ制止を矢田に阻まれている。

基本的に損な役回りを与えられているが、ナ・イ・シヨ9話では甲子園の一言に昔を思い出し、野球部の特別試合に協力する姿勢を見せた。

小竹哲也

矢田と同じソナチネ幼稚園出身。クラスの男子内では中心的存在。関先生に呼び出された矢田に気安く声をかける程、彼との腐れ縁は長く深い。その後も秘密基地の思い出を共有するなど、男子らしい付き合いを続ける。

どれみに思いを寄せるが、全く伝わらず伝えられない。最終回、矢田と長谷部に背中を押され6年間の思いをぶちまけるも、結局告白はできなかった。

玉木麗香

自意識過剰なお嬢様。おそらく従妹のえりか同様、プリムラ幼稚園出身。矢田とは少なくとも3年からずっと同じクラスだったが、野蠻、不良などと口にし、偏見の目で見ていた。その性格故か、学級委員選挙から秘密基地騒動に至るまで、終始矢田とは対立する立ち位置に収まる。

だがその実、優しい面も持ち合わせている。5年生の時にはももこと親友となり、やがて児童会長選挙で勝利。最終回では遂に、どれみを見を認めた。

SOSTリオ／新SOSTリオ

3、4年時は佐川ゆうじ、太田ゆたか、杉山豊和で構成される。3人共、同じソナチネ幼稚園出身。特に杉山とは何度か親しく会話していた。

5年時はクラス替えで離れた杉山が抜け、佐藤じゅんが参加。お笑い芸人と自称する割に、そのギャグは低レベル。むしろ、授業を妨害したり、級友をからかったりする問題児としての扱われ方も多い。

トヨちゃんケンちゃん(トヨケン)

孤立した杉山が、同クラスの小倉けんじと結成した漫才コンビ。だがドツカ〜ン！9話では無神経な言葉を矢田はづきに言い放つてしまい、あいに最低だとなじられてしまう。だが仲違いしたわけではなく、後の秘密基地騒動では矢田と共に彼ら二人も参加している。

木村たかお

矢田と親しい男子。#5話で小泉まりなとケンカした際、矢田に相談した。

小竹とは4年まで同じクラスだった。その後もサッカー部では一緒だったらしいが、まりなどの進展に忙しく、5年以降での小竹との絡みは少ない。ソナチネ幼稚園時代の回想で彼の姿はないが、幼いはずきの誕生日会に矢田、ななこ、まりなど共に呼ばれており、実は矢田との付き合いは相当古い。

宮本まどはる

3年2組〜6年2組の学級委員。2学期で自分を変えるために学級委員選挙に立候補、彼の人柄を知る矢田は彼を支持した。基本的に級友は名字で呼ぶ矢田が、「まさはる」と下の名で呼ぶ数少ない人物。というより、何故かどれみたちからも「まさはるくん」と呼ばれている。

だがその後は凋落を見せ、も〜っと！CDドラマでは証拠もなく級友を疑ったせい、どれみからの呼称も「宮本くん」へと降格した。児童会長選挙でも失態を見せ、そしてナ・イ・シヨ8話での奇行と玉砕は、涙なしに語れない。

岡田ななこ

同じソナチネ幼稚園出身。どれみとはづきの幼稚園時代の大ゲンカでは、矢田と共に仲直りのため奔走した。無印50話でも、「どれみが魔女かも？」という電話連絡を矢田に回している。

島倉かおり

同じソナチネ幼稚園出身。新聞部記者で、矢田が警察に捕まった情報をいち早くつかむ。玉木の腰巾着なイメージが強いが、矢田とは毎年山内寺の怪談・肝試しに参加。腰の引けた矢田たちを「だらしないわねえ」と一蹴した。

中山しおり

3, 4年で矢田と同じクラスだった女子。病弱で、学校を休みがち。

#15話で、母の日への思いを矢田と共有し、それをきっかけに親しくなる。ドッカーン！9話で入院した際も矢田は彼女を気遣い、トランペットの練習を兼ね毎日彼女の元に通っていた。その真意は、寂しい時にそばにいてやらなければという彼の優しさから来るものだった。

矢田への想いを自覚している節のあるはずきに対し、彼女が矢田を友達以上

に思っているかは不明。だが少なくとも、「おジャ魔女ドッカーン！ CDくらぶその6 キヤラクター・ヴォーカルコレクション 6年2組盤」の彼女のキヤラソン『忘れない』では、「優しい微笑み 温かな胸」「忘れない忘れない私の大切な人 忘れない忘れない 心の中にいつまでも」と唄い上げている。

岡島小太郎

5年から矢田と同じクラスになった、剣道少年。

服部道場との試合の助っ人になってほしいと、矢田と長谷部に依頼、彼らを指導する。その剣の心は、矢田をして「根性あるな」と言わしめた。

修学旅行でも同じ班となり、矢田と長谷部のケンカを諫める。

長谷部たけし

5年から矢田と同じクラスで、矢田の前の席に座る、ケンカ友達。

も〜っと！15話で母の絵を描く授業で、矢田をマザコンと称し怒りを買ひ、殴り合う。その際昨年の矢田と同じ、へのへのもへじの絵を描くなど、結局彼とは似た者同士。

その後も、矢田とまともに争えるケンカ相手として、衝突が絶えない。その格闘能力は、幼馴染みの工藤むつみから、プロレス技の実験台として被害を受け続けていた経験から培われた、と考えることもできる。

「バカ矢田」「タコ」などと彼を呼ぶ長谷部だが、声を揃えてツッコむなど息はぴったり。岡島道場での剣道修行、修学旅行での班、キャンプなど、行動を共にする場面は多い。矢田を怒らせるだけでなく、時には笑って彼の肩を支えるなど、彼らなりの友情を育んでいく。

最終回では矢田と共に、小竹を後押し。最後までコンビは健在だった。

中島正義 中田こうじ 万田じゅんじ 万田ようこ 宮前空

ドッカーン！17話で小竹たち、どれみたちと共に、秘密基地を共有した仲間。

フジオ

魔法使い界のエリートを自称するFLAT4の一人。かつて魔法使い界を救うため、ハナを狙ったが和解。その後もはずきに近づくが、矢田に一蹴された。

第2章 矢田まさるの台詞・会話集

1 小学3年生編

初台詞以前

1、2話には登場せず。教室の後ろのドアの側が矢田の席だが、本話に限らず、その席には小竹、木村、佐川が座り談笑していることが多い。

3話Aパート、転校生のあいこ紹介前で初めてその姿を確認できる。

関先生が教室に入った直後クラスの全景が映り、教壇から見えて左上の隅の席に小さく登場。目をつぶっている。直後、玉木の号令時、玉木の後ろの席で起立。やはり目はつぶり、右手もポケットの中。気だるそうな様子は最初から。ちなみに玉木の初台詞シーンでもある。

あいこの自己紹介に割って入るSOSトリオの初登場シーン、玉木の後ろから左に寄って前を覗き込む矢田。目を開いた初めてのシーンである。

「救いようのない 大ボケ 三バカトリオ」というあいこのツッコミによろけるSOSトリオ、その後ろで頭を震わせる玉木。その頭と杉山の右手の間にかすかに映る矢田も、同じく頭を震わせた……突っていたのかもしれない。

あいこの自己紹介終了。教室全景の左上の隅で、目をつぶりながら素直に拍手する姿が。初対面の悪印象がぬぐえず、頬杖をついて拍手しないどれみとは対照的である(はづきも笑顔で拍手していた)。

どれみ、はづきとの口ゲンカ中、関先生の必殺チョーク投げをキャッチするあいこ、点目になった児童一同から拍手を浴びる。関先生まで点目で拍手。流石にどれみ、はづきは拍手しなかったが、矢田もまた独りだけ目をつぶり、うつむき腕を組み無反応。この時点でクールな矢田の性格は表現されていた。

3話Bパート。授業参観シーンのクラス全景で、やはり左上の隅に登場

後ろの母親のほうばかり見る杉山を注意する関先生のシーンでは、目を開き真面目に授業を聞いているように見える。後、顔を赤くして「恥をかかすんじ

やないよ」と叫ぶ杉山母、顔を青くしてうつむく杉山、クラス一同が笑う中、矢田までまともな笑顔を見せている。

さらには、あいこ父が駆け付けたシーンでは、他のクラスメート同様にあいこのほうを向く。ラストであいこが問題を解けないオチのシーンでは、半分に見切れながら満面の笑みである。もはや完全にモブキャラであった。なお何故か、この場面だけ矢田のシャツが青く、袖が赤い。

5話には再び青シャツの矢田の後ろ姿が登場する。しかも髪は黒く、アホ毛は飛び出ていない。青いシャツは何故か肩口から赤く変色している。ズボンも薄い灰色。他クラスの良く似た人物の可能性もあるが、#38話の学芸会打ち合わせ中に一瞬再登場した。この詳細は、同話にて解説する。

動きについては、信子の「ついてはいけない嘘」に激怒するあいこをよそに、佐川と何やら話しているように見える。佐川は信子の嘘話の巧みさに「そうそう」と頷いて口を動かしていたが、矢田に動きはなく不明。

10話。MAHO堂で働いていることがバレ、関先生に呼ばれ教室を去るどれみたちの姿を、心配そうに見つめる矢田の顔。

11話。小泉まりなの飾ったスイトピーに気づく関先生のシーン。起立し朗読する杉山に隠れて顔は見えないが、玉木の後ろの席で教科書を一応開いている。さほど授業をさぼることはない模様。

Bパートでも、嵐の日の授業に出席。後、強風の様子をベランダで見る小竹、木村、SOSに同行。男子児童と交友がないわけではないと伺える。

15話。幼稚園に連れ去られたマジョリカを救うべく、保健室に向かうという名目で教室を去るどれみたちを横目にしてはいるのかどうなのか不明だが、頬杖をつく矢田。別に斜め前の席のしおりと見つめ合っているわけではないが、どれみたちが居なくなっただけから視線は微動だにしていない。

無印17話「矢田くんは不良小学生!？」

(1999年5月30日放送)

○アバンタイトル

暗雲の中、ポケットに手を入れ独り歩く姿で初登場。

「ねえ聞いた？ 3年の矢田まさる、また先生に呼び出されたって」

「本当？ 今度は何したの？」

「どうせロクなことじゃないと思うけど」

女兒ふたりの会話、誰かは不明。「3年の」という言い草から、他学年にも矢田の悪い噂は広がっていると推察できる。また、美空小には善人ばかりいるわけではないという現実も示している。

○Aパート

「きょうふの小学生 矢田まさる 中学生をボコボコ！」という見出しが躍る美空小新聞で幕開け。島倉の台詞より、矢田の相手が「3人はいたみたい」と分かる。後、矢田が教室に。静まり返る教室、うつむいて無言で着席。

タイトルコール明け、算数のテスト返却。10点のどれみをよそに、

関先生「ん？ ……矢田まさる」

関先生に呼ばれ、矢田着席。不穏な空気でクラスメートが矢田を見つめ、どれみ、はづき、あいこも注目する中、目をつぶり不機嫌そうにゆっくり教壇に向かう矢田。

関先生「どういうつもり？」

矢田「何がですか？」

記念すべき初台詞。

関先生「何も書いてないじゃない」

矢田「別に」

記念すべき初決め台詞。

関先生「次やったら承知しないよ」

無言で左眉を動かし、答案を受け取る。

音楽の授業。ピアノを弾きながら、そっぽを向くまさるに気づいた関先生が立ち上がり。

関先生「まさる」

矢田「はい」

関先生「真面目に歌いなよ」

矢田「……ガキっぽいから嫌だ」

目を背ける矢田。関先生も着席し、

関先生「だったら廊下行きな」

素直に廊下に出る矢田。「こわ〜」と怯えるどれみ、あいこを背に、矢田を見つめるはづき。

作文の時間。テーマは「私の先生」。手を動かすも、眉毛を動かし書きかけの文を消す矢田。「関先生は怒って」まで読める。問題はその上部分に書かれた「僕の先生」。矢田の一人称は俺だが、この時点では出てきていない。

関先生、書き直されたその分に気づき、腕組みして尋ねる。

関先生「ん……？ まさる」

矢田「はい」

関先生「それでおしまい？」

矢田「はい」

大きく青筋を頭上に浮かべて、関先生。

関先生「じゃ、読んでもらおうか？」

矢田、無言で起立。原稿用紙一面に描かれた「ブス」の文字が大写しに。

矢田「私の先生。——ブス」

凍りつく教室。……矢田が初めて口にした一人称は「私」だった。

関先生「いい度胸だね」

矢田「別に」

関先生「ちよつとおいで？」

関先生と共に退出する矢田。「ヤッバ〜」と声を揃えるどれみ、あいこ。心配そうなはづき。「死ぬなあいつ」の小竹の言葉にうなづく木村。

だが、関先生が連れていったのは職員室ではなく。

関先生「ん……、やっぱり屋上は気持ちいいね」

矢田「叱るんじゃないんすか？」

関先生「え？ フフフ……まさる、視力検査受け直したほうがいいよ。こんな美人がブスに見えるようじゃ、相当悪いよ。

お父さん、帰ってくるんだって？」

矢田「？」

関先生「大変だね、単身赴任……ドイツだっけ？」

矢田「はあ」

関先生「いつ帰ってくるの？」

矢田「……明後日」

関先生「良かったね」

矢田「別に」

関先生「ふう、素直じゃないねあんたも」

矢田「話がないんなら俺、戻りますけど」

関先生「あたしにはないけどさ、あんたのほうにはあるんじゃないの？」

矢田「別に……じゃ」

軽く頭を下げ、屋上から去る矢田。関先生はそれを追いかけて、留まる。

関先生「ホント、素直じゃないね」

自習中、やはりお喋りしている教室に、矢田が戻る。

小竹「まさる、無事だったのか？」

杉山「殴られた？」

小竹「一発か？ いや、三発は食らったろ？」

杉山「やっぱ足使って反撃したの？」

矢田「そんなんじゃねえよ」

矢田のほうを向く小竹、木村、玉木、島倉。太田、杉山、さらには中田まで離席し矢田の席に近づく。

小竹「あ、関節技？」

島倉「後でインタビューさせてもらえます？」

玉木「野蛮ね」

矢田「関係ねえだろ」

その言葉に黙り込む一同。男子からはある種英雄視されていそうで、決して障害ばかりされているようではないのだが。

はづき「矢田くん……」

自分の席からそれを見つめるはづき、初めて矢田の名を呼ぶ。この時は「まさるくん」ではなかった。

MAHO堂。イルカに見えないどれみのMAHOグッズが何に見えるか会議に参加しないはづき。レレも、一同も心配して声をかける。

はづき「ありがとう、そんな大げさなことじゃないの。ただ、ちょっとまさるくんのが気になるって……」

どれみ「まさるくんって……」

あいこ「矢田くんのこと？」

はづき「あ……うん。私と矢田くん、同じ幼稚園だったのね。本当はとても優しい子なの矢田くん。」

私が公園で遊んでいた時、転んで怪我したことがあって、その時助けてくれたのが矢田くんだったの。おまけに家までおぶってくれて……

ただ、その頃から矢田くんは悪くないのに誤解されて、叱られることよくあったのよね」

どれみ「ふーん……」

あいこ「そうなん」

はづき「うん。だから矢田くんがそんなことするなんて、きつと何か事情があるんじゃないかって思うのよ」

どれみ「矢田くんって不良っぽいけど、訳もなく乱暴したりしないもんね」

はづきと同じ幼稚園のはづきのどれみも、矢田を誤解してはいない模様。

マジヨリカの、人間なんぞ幾らでも変わる、悪に染まるなどたやすいこと、という厳しい言葉に抗議するララ、どれみ、あいこ。表情の晴れないはづき。

真夜中の埠頭8番倉庫、矢田の影が見える。

翌日、教室。矢田まさるが警察に捕まったとの情報を持って、島倉が飛び込んでくる。昨晚、埠頭にある8番倉庫に無断で忍び込んだというのだ。

ショックを受けるはづきをよそに、島倉はインタビューを開始。

小竹「まさか彼がそんなことするなんて、まだ信じられません！」

ややわざとらしく、ありがちなコメントをする小竹。

玉木「いつかやると思ってたわ！ あんな不良と同じクラスだなんて、考えただけでもクラクラするわ」

杉山「ブラボーベラボーのっぺらぽー！」

そこに割って入るはづき。「矢田くんはそんな人じゃない」と。絶対何かの間違いだ。島倉の言葉にも、ちょっと落ち着こうというどれみ、あいこの言葉にも耳を貸さない。呆然とするどれみ、あいこを背に、職員室へ確かめに行こうと廊下を走っていくはづき。

真面目な彼女らしくない言動に、いざという時の行動力が伺える。また、はづき独りで先行したのも特筆である。

はづき（そうよ、絶対絶対まさるくんがそんな悪いことするわけない！）

モノローグでは、呼称が「まさるくん」に戻る。

校長室の扉の向こうから聞こえてくる声。

教頭「全く困ったもんですな！」

校長「まあまあ落ち着いて」

教頭「校長！ 矢田まさるは先日も問題を起こしたばかりですよ？ それが今度は倉庫に忍び込んで警察沙汰とは」

大声に気付き、はづきが校長室前で立ち止まり、耳を傾け。場面暗転。

はづき「え……そんな……そんな……！」

廊下を歩き、戻ろうとするどれみ、はづき、あいこ。

どれみ「矢田くん、倉庫なんかで何してたんだろう？」

あいこ「問題はそこやな」

どれみ「このままじゃ関先生クビになっちゃうよ」

はづき「行ってくる！」

立ち止まるはづき。振り返るどれみ、あいこ。

どれみ、あいこ「え？」

はづき「自習時間の間に倉庫まで調べに行ってくる私！」

あいこ「よっしゃわかった！」

どれみ「あたしたちも一緒に行くよ！」

魔法のほうきで8番倉庫に移動。マジカルステージ『矢田くんが何をしていたか教えて！』発動。

ビデオのリモコンを操作すると、窓に昨夜の様子が映る。巻き戻しのエフェクトが完全にビデオテープのそれなのは、ギリギリ90年代という時代故か。

映像には鞆から何か光るものを取り出す人影が。シルエツトで「まさるくん？」と気づくはづき。

警備員の足音に気付いたか、鞆に何かをしまいコンテナの下に隠す。そこで警備員に見つかり懐中電灯に照らされ、姿がはっきりと映る。「まさるくん！」と叫ぶはづき。矢田は警備員に取り押さえられ、VTRは終わる。

その場所を調べると、その鞆が見つかる。その中身に、「何？ 何でこんなものが？」と驚くはづき。彼女も知らなかった模様。

外に出て私服に戻り、改めて鞆の中に入っていたものを吟味。

どれみ「トランペット？ これ」

はづき「そうね、練習してたのかしらまさるくん」

あいこ「何でこんなところで練習せなあかんねん？」

どれみ「だよねえ」

はづき「どうしよう、元に戻しといたほうがいいかしら」

矢田「お前らー！」

どれみ、はづき、あいこ『うわっ！』

矢田「何やってんだ？」

はづき「まさるくん！」

ここでようやく、矢田とはづきの初会話シーン。

あいこ「ええと、何って、何やったかな」

どれみ「別に、大したことじゃ」

矢田「あ！ それ俺のじゃんか！ 返せよそれ」

三人の手にあるトランペットに気付き、不機嫌に詰め寄る矢田。

あいこ「あかん！」

どれみ「ダメダメ！」

はづき「返してほしかったらすぐに学校に行って！」

矢田「放せよ！」

はづき「まさるくん悪いことしてないんでしょ!? だったら関先生にちゃんと話して！」

どれみ「じゃないと関先生クビになっちゃうんだよ！」

矢田「え？」

関先生「……やっぱりここか」

関先生登場。振り向く矢田、手を急に離され倒れ込む三人。

関先生「ん？ 春風たちは何でここにいるわけ？」

どれみ、はづき、あいこ『あはは………(めんなさい)』

関先生「さ、まさる？ 学校行くよ」

無言で見つめ合う矢田、関先生。根負けし、視線をそらして口を開く矢田。

矢田「俺が戻らないと、クビになるんだって？」

張り詰める空気。怯え出すどれみたち。

関先生「関係ないよ」

矢田「自分がクビになると困るから迎えに来たんだろ？ バレちゃってるんだよ。まあいいけど戻っても。先生クビにしちゃ可哀想だし」

関先生「見損なうんじゃないよ!!」

矢田「えっ!？」

思わず正面に向き直る矢田。カットインで怯えるどれみたち三人。

関先生「ガキが偉そうなこと言うんじゃないよ!」

矢田「何い!？」

声を上擦らせる矢田。ゆっくり近づいてくる関先生。後ずさる矢田。

関先生「まさる! あんたさ、悪いことしてないならしてないって、警察でも、校長先生や教頭先生の前でも、胸張って言えはいいじゃない! 何でそんな簡単なことが出来ないのよ?」

そうやって口つぐんでスネてたってね、誰もわかっちゃくれないよ!」

矢田「んやうー!」

関先生「本当のこと話すのが怖いんでしょ」

矢田「別に俺は……」

関先生「そういうことが出来ない奴をガキって言うんじゃないの?」

矢田「うるさいー!」

関先生「いつまでそうやってコソコソ逃げ回るつもりよ!」

矢田「んやうー!んやうー!んやうー!んやうー!」

涙を浮かべて、右拳を関先生の腹に叩きつける矢田。

関先生「うっ!」

どれみ、はつき、あいこ『いやっ!』

矢田「言ったって、本当のこと言ったって信じてくれないじゃないかよ! 畜生、先生に何がわかるんだよ! バカ、バカ! 嫌いだ、大っ嫌いだ! 大っ嫌いだ!」

打ち続けられる拳をつかみ、そのまま抱きしめる関先生。

矢田「え……」

関先生「信じてるよ……あたしは、まさるのこともっとよく知りたいんだ。そりや確かに、まさるの全てをわかることは出来ないかもしれない。でもわかるように努力しれるんだよ、これでもさ。」

だからさ、だから何でも話してよ。思ったこと、何でもぶつけてよ。頼むよ……私はまさるの味方のつもりだよ? ねえ信じられない?」

涙を流し、首を振る矢田。

はづき「まさるくん……」

矢田の手に戻ったトランペット。

事情は、全て矢田が説明したようだ。

関先生「なるほどね。夜の倉庫なら人目につかず、思いっきり練習が出来ると思っただけだ」

矢田「うん……」

関先生「練習してるところを人に見られるのが恥ずかしいんだね?」

矢田「悪い?」

関先生「いや、わかるよそれ」

どれみ「え、関先生が?」

関先生「そうよ。小学校の先生になるためには、ピアノの練習をするんだけどね。ピアノなんてあたしの柄じゃないし。」

で、人目につかないように猛練習したってわけ」

どれみ、はづき、あいこ『へえー……』

関先生「あたしどうしても、小学校の先生になりたかったから」

そんな担任を見つめる矢田。

関先生「意外？ 恥ずかしがり屋があんただけじゃなくて」

矢田「ん、別に……。あなさ」

微笑み口を開く矢田の話を、無言で聞く関先生、どれみたち三人。

矢田「これ、父さんにもらったんだ」

どれみ、はづき、あいこ『え？』

矢田「父さんがドイツに行く前にさ」

回想シーン。園児服の矢田、鉄棒にぶら下がる。そこに矢田父が歩いてくる。これが矢田父最初で最後の出番である。

矢田父「まさる。父さん、しばらく帰ってこれられないから」

矢田「早く行っちゃえ」

矢田父「……来いまさる」

振り向かない息子に、矢田父は埠頭に来るよう促す。

矢田「何？」

無言で息子を見つめた後、水平線に向かって一曲吹く矢田父。その姿をずっと見上げる矢田。

矢田父「まさる、これをやる」

矢田「え？」

矢田父「お母さんを頼むぞ、まさる」

矢田「……うん」

実母か、継母のことかは不明だが、矢田にとってはどちらでも変わらない。そして回想シーン終了。これが、矢田父最初で最後の出番である。

関先生「そっか。お父さん明日帰ってくるんだったね」

矢田「うん」

あいこ「そりゃ練習せなあかんな」

はづき「あ、じゃあ中学生ボコボコ事件も？」

矢田「いつもの空き地で練習したら、あいこら急に絡んできて、トランペット蹴りやがったから……!」

はづき「え？ ひどいわ——っ!! 何てことするの——!?!」

どれみ、あいこもムツとするも、噴火するはづきに4人揃ってたじろぐ。

関先生「でもケンカは良くないよ、ケンカは」

はづき「は！ はい……!」

倉庫のおじさんは事情を話したら許してくれたとのこと。そして、矢田の演奏する「キラキラ星」が初披露される中、自習をサボったどれみたちに補習を言い渡す関先生。

父のように、水平線へ向けトランペットを吹き続ける矢田の姿で劇終。

本話における関先生の「何でも話し、思ったことはぶつける」の教えは、その後最終話まで彼の中で一つの指針として生き続けることになる。

無印20話「ライブル登場！MAHO堂大ピンチ!!」

(1999年6月20日放送)

OBパート

マジヨルカに店を乗っ取られたことで、元祖MAHO堂のグッズが美空小中に蔓延。クラスに入った途端、SOSトリオにからかわれ怒り出すどれみ、あいこ。立ち止まり嘆息するはづきだったが。

はづき「はあ……」

矢田「気にすんなよ」

はづき「ん？」

矢田「ったくあんなダセグッズ買いやがってよ……」

はづき「まさるくん……」

はづきに何かあった時、そつと声をかける彼の役目はここから始まった。

無印21話「マジヨルカグッズは危険がいっぱい」

(1999年6月27日放送)

OAパート

マジヨルカのMAHOグッズの効果で、ゴージャスなドレスを着て登校する玉木。特別に派手な格好だが、クラスでは評判がいいらしく、小泉まりなまで「あら、素敵い」と悶えてしまう。だが矢田は、

矢田「何だあれ、バツカみてえ」

小竹「何か迫力増したなあ」

小竹共々、マジヨルカの魔法グッズの影響は効いていない模様。

OBパート

給食は柳田すすむの願いが叶ったか揚げパンだらけ、SOSのギャグもウケている。SOSの輪の中には矢田、小竹の姿もあるが、笑っているかは後ろ姿なので不明。ちなみにはづき曰く、「何だか今日は冴えが足りないわね」と。

翌日。新しいドレスを買ってもらうも、また揚げパンの出た給食中に体調不良で倒れる玉木。玉木に肩を貸し、保健室に向かう小竹。矢田も立ち上がっており、小竹共々ヒトゴトにする気はないようだ。そればかりか、

はづき「それにしても急にどうしたのかしら？」

あいこ「自分の暑苦しい顔見過ぎて、気分悪なったんちゃうの？」

矢田「具合が悪いのは、玉木だけじゃないぜ？」

と、SOSトリオや柳田らの様子を、冷静に指摘までしてみせた。こうして、どれみたちがマジヨルカグッズの危険性に気付くきっかけを与えたのだ。

彼は一番後ろの席で壁に寄り掛かり、静かに教室を、級友を観察している。

無印23話「大逆転?!おジャ魔女の試練」

(1999年7月11日放送)

OAパート

魔法玉を全て失い、6級試験も受けられないでいるどれみたち。落ち込むはづきを激励するフラ。帰路に着くと、河原にてキラキラ星を吹く矢田の姿が。

はづき「まさるくん……」

矢田「ん？……ようっ」

はづき「この前より、上手くなったねトランプ」

矢田「別に……？」

顔を赤くする矢田。が、何やらうるんだ目で見つめられ、嘆息しながら話を振る。

矢田「何だよ、用でもあんのか？」
はづき「うん、ちよつとね」

橋の上に移動。

矢田「なくなっちゃったものが何かは知らねえけどさ、それが本当に必要なものなら、俺だったらバイトしてでも手に入れるな」

はづき「アルバイトか……」

矢田「それでもダメなら土下座でも何でもして手に入れる。ま、お嬢様の藤原には無理か」

はづき「ううん、すごく参考になったわ。ありがとうまさるくん」

矢田「別に……じゃあな」
はづき「ありがとう！」

OBパート

その夜、故あってはづきの家に集合する一同。魔法玉がないことを嘆くあいこを「そんなことないと思う」と諭し。はづきが矢田の言葉をどれみ、あいこに伝える。

はづき「夕方、矢田くんに、自分が本当に必要だと思っなら、土下座してでもバイトしてでも手に入れろって言われたの！」

あいこ「土下座してでも」

どれみ「バイトしてでもか。いいこと言うじゃん矢田くん！」

はづき「でしよう？ 魔法玉がないからってクヨクヨしてるんじゃないんで、手に入れる方法を考えましよう？」

そして、魔女界でアルバイトしようと決意。女王様の城で薪割りのバイトをすることになり、3人で血豆をつぶしながら魔法玉を得、6級試験に合格。

それによりポロンもバージョンアップしただけでなく、バイトの中であいこが「あたしらは友達やない、大親友や」と発言。初めて「大親友」というM A H O堂の絆が結ばれたきっかけは、矢田が作ったとも言えるのである。

おジャ魔女CDくらぶその3 おジャ魔女ハッピードラマシアター!!
(1999年8月21日発売)

Oどれみの看護婦篇

はづきの家にお泊りしに来たどれみ、あいこ、ぽつぷ。妖精たちやマジョリカ、ララも加わり、3人の将来の夢について語り合う。まずは、白衣の天使を夢見るどれみが、魔法を使つて看護婦になったらどうか試してみることに(1999年当時は、まだ「看護婦」の呼称が一般的だった。2003年3月の法改正により、現在のように男女問わず「看護師」と呼称されることになる)。

ゆき婦長(現在「看護婦長」は「看護師長」等と称されている)の指示で、見習い看護婦のはづき、あいこの指導係になった春風正看護婦。だが彼女が看護婦になった理由は、素敵な旦那を探すことだった。この病院にはかっこいい先生が居ないそうだが、患者から探せばいいと。

その時急患が。男性22歳O型、多発性裂傷、左胸郭の一部損失、血圧は触診で80。右大腿部と左上腕部に開放骨折、出血も多量。ドクター関の指示で、オペのために患者の持つているトランペットを外そうとするも。

はづき「血だらけなのに何て力なの!？」

矢田「……やめてくれ」

あいこ「意識があるんや!」

矢田「俺トランペット持っていないと不安なんだ」

あいこ「けつたいな患者やな」

ドクター関「何やってるんだ、早く取れ」

はづき「は、はい! 患者さん、そんなに不安なら、トランペットの代わりに、私はずーっと手を握っていてあげます! さ、トランペットを離して!」

矢田「……ああ」

あいこ「トランペット外しましたー!」

ドクター関「よおし、緊急治療室に運び込め」

はづき「先生、どうなんですか?」

ドクター関「出血は止まった」

どれみ「関先生、脈に異常です! 血圧も70の50、危険な状態です」

ドクター関「オーマイナース〇〇を輸血。フラットライン、エピルピンとアストロピン、そ

れぞれ1ミリグラム投与」

矢田「……うう、注射は嫌いだ!」

ドクター関「ほら、動くな!」

はづき「逃げちゃだめよ!」

矢田「嫌だ、嫌だ、嫌だ!」

ドクター関「注射ぐらいでいい加減にしろ!」

殴打音。ピツ、ピツ、ピツ、ピ……。

どれみ「あああーっ、脈が消えました!」

あいこ「センセ叩き過ぎ!」

ドクター関「……アハハ、し、心配するな。——電気ショック療法用意」

あわや医療ミス発生だったが、何とか心臓は動き出し、嘆息するはづき。

で、一気に時間は飛び。鐘の音、そしてワグナーの『婚礼の合唱』が流れ始める。

ゆき婦長「はづきちちゃん、おめでとう!」

ドクター関「矢田! 藤原を不幸にしたら、承知しないぞ?」

あいこ「春風先輩、どないしたんですか? 元氣ないですねえ」

どれみ「何で藤原があたしより先に結婚しちゃうわけ?」

あいこ「ハハ、トランペットが仲を取り持ったんやから、まあしゃーないやないですか」

どれみ「しかしあのトランペット野郎が、人気ジャズトランペッターの矢田まさるとはね。わかつていれば手でも足でも握ってあげたのに! あーあ……」

その後どれみは、ぼつぷが連れてきた、お餅を詰まらせたぶにゅちゃんを結果的に助けたり。腕の怪我で入院してきた「たまにTV出てる」トリオ芸人を、あいこがお笑いの一から叩き直していたら、何故か佐川と結婚した拳句、S O S トリオもブレイクして若手ナンバー1になってしまったりした。

なお、夢の中で結婚していたことに対する感想は、はづきもあいこも触れず詳細不明である。

〇はづきの女子プロレスラー篇

一方、この頃は「バイオリンは趣味でやり続けたい」つもりだったはづきの夢は、女子プロレスラー。ある意味ではどれみ以上に危ない夢だが、はづき本人は燃える程やる気なので、やはり魔法で試してみる。

美空市立体育館にて行われる、40分1本勝負WWWH世界女子タッグ選手権。正義のレスラー「ウィッチーはづき」と「プリティーまりな」組対、「ビューティマスク」と「ストロング奥山」組の世紀の一戦。一人の女子プロレスファンが集まるも、99.9%ははづき・まりな組の応援らしい。

ぼつぷレフェリーが髪をセットしている隙に、かみつき攻撃したりガラスを爪で引っこけたり羽根ぼうきでくすぐったりと、やりたい放題のビューティマスク。えげつない攻撃に激怒したストロング奥山がリングを下りるが、構わず攻撃を続ける。動けないウィッチーはづき、その時!

ビューティマスク「ホーツホツホツホ、これで完全にわたくしの勝ちですわ。レフェリー、とっとと戻ってきて、カウントなさい?」

謎のトランペッター「ちよっと待った!」

実況担当・春風どれみ「おーっと! リングサイドにトランペットを持った、謎の青年が現れた!」

謎のトランペッター「ウィッチーはづき! 君はこんなことで屈するレスラーじゃないはずだ。俺のラッパを聞いて、元氣を出すんだ!」

普段「ペット」と略す矢田が、トランペットをラッパと呼んだのはこの時だけ。いや声が付いてるだけで、矢田とは明言されていないのだが。

解説の妹尾さん「何や、変な展開になってきたけど、ここはやっぱロッキーのテーマかいな!？」

が、それを流すにはJASRACへの手続きが面倒そうなので、やつぱり。

一同『どっひゃ〜〜!!』

解説の妹尾さん「何で『キラキラ星』やねん？ これじゃ出る力もしぼんでまうわ！」

ウィッチーはづき「いいえ、力がわき出てきたわ！」

実況と解説『ええっ!?!』

ウィッチーはづき「ありがとう、謎のトランペッターさん！ 私負けない！ たあーっ！」

五條真由美氏の名曲「10秒かぞえて」の、インストウルメンタル曲をバックに大逆転。空中での超必殺技「はづき・ローリングサンダーマッハスペシャル」でKO。チャンピオンベルトはウィッチーはづき組の手に守られた。

そして謎のトランペッターがいつ帰ったかなどは一切語られず、謎のまま終わったのだった。だが、この「謎のトランペッター」に似た役割のキャラを、#38話の学芸会で矢田自身が演じている。

さて特筆すべきのは、はづきの望んだ未来では、矢田は「謎の助っ人」だが、どれかが望んだ夢の未来では、はづきのほうが矢田を支え、挙句結婚していたことである。つまり現時点でどれみは、はづきと矢田の仲を予見していたとも考えられる。一方のはづきは、無印23話のようにそっと背中を押してくれる、あくまで「とても優しい子」というだけの認識のようだ。この頃は、だが。

無印30話「ユウレイに会いたい!」
(1999年8月29日放送)

OAパート

山内寺の正門前に、揃う一同。小竹の号令で、どれみ、はづき、あいこ、小竹、矢田、SOSトリオ、信子、島倉が『たーのもーう!!』と叫ぶ。

夏休みの終わりの時期恒例の行事らしい、山内寺での信秋の「よいお話」。初めてお堂に入ったらしいどれみ、あいこ、「よいお話」の意味を測りかね戸惑うはづきの様子を見るに、3人はどうやら初参加の模様。

あいこの腕に抱きつく信子に對を為してるのかどうなのか、はづきの隣に座る矢田は固く目をつぶり微動だにしない。

信秋の怪談が終了、耐えきれず暴れ回るはづき。大騒動の中、どれみはやはり動きを見せない矢田に気付く。だが心中では……

どれみ「あ、さっすが矢田くん。皆がこれだけ騒いでも顔色一つ変えないよ」

矢田(腰……抜け……た)

はづき同様、矢田もお化け嫌いであると、視聴者に発覚した瞬間である。

そのまま肝試しになだれ込む。無理だとわめくはづきに、怖くなったらマジヨリカを思い出せとあいこがアドバイス。あの底意地の悪さは幽霊以下だと。どれみも、何てったって魔女ガエルだし大丈夫、と。

太田、杉山以外の一同『行つてらっしゃーい!!』

矢田も確かに口を動かしているのが確認出来る。

お化けを目撃し慌てて戻ってくる太田、杉山。信秋が、その幽霊は自分の祖父だと語るその横で、無言のまま眼と眉毛を震わせる矢田。ちなみにはづきは何れみを抱き付いている。

事情を聞き、本物のお化けが見られると盛り上がる一同。

OBパート

二期期、玉木麗香と宮本まさはるの学級委員選挙戦はヒートアップ。宮本側に付いたどれみたち。ビラを配りながら、宮本に投票するよう小竹に推すどれみだったが、当の小竹は言われなくても宮本に投票するつもりだったようで、頑張れよと声をかけていった。そして、

矢田「俺もまさはるに投票するぜ？」
はづき「矢田くん」

さらに、小泉まりなも続いた。
選挙用Tシャツまで作り調子に乗る玉木を、無表情に見つめる矢田。

その後も苛烈な選挙戦は続き、投票寸前でとうとう口論に。玉木こそウチのクラスの学級委員に相応しいという杉山に、

矢田「ホントにクラスのこと考えてる奴が、学級委員になるべきだろ」

宮本の「掃除は一日三回」などの面倒な公約を承知でも、宮本の人柄を優先したとわかる。そして、彼もこのクラスを大事に思っていることも。

さて蓋を開ければ、27対2で宮本の圧勝だったわけだが、本当に矢田も彼の公約通り、一日三回の掃除に校庭の草むしり、近所のクリーン作戦をしたのだろうか？ 残念ながら矢田のリアクションは見られなかった。

無印50話「最後の見習い魔女試験」

(2000年1月23日放送)

OBパート

人間界を舞台にした魔女見習い1級試験に挑む、どれみ、はづき、あいこ、
そしておんぶ。

その最中、島倉がどれみとあいこのお着替えシーン、そして魔女見習い姿でホウキに乗り空を飛ぶ姿を目撃してしまう。玉木、宮本も、それぞれはづき、おんぶが空を飛ぶ姿を目視。

島倉から玉木、まさはる。まりな、ななこと続いた電話リレーに、矢田も加わっていた。

まりな「あ、ななこちゃん？ ねえ聞いた、どれみちゃんたちが、空飛んでたんだって」
ななこ「まるで、魔女みたいだったって」

矢田「聞いたか？ 春風たち魔女だったよ」

そのいつもの表情を見るに、はづきが魔女だという話をロクに信じておらず、特に慌てでもない様子。

さて、ここでキツツキが電話線をつついたことにより、小竹は「え？ どれみと魔女と……何だった？」と聞き取れない。さらに信子が、どれみたちが魔女を捕まえてMAHO堂に監禁したと話を膨らませたことで、「どれみたちが魔女に監禁された」との誤情報で、どれみたちの家族に伝わってしまう。

クラスメートたちもMAHO堂に集まろうとしていた。玉木、信子、まりな、ななこに続き、矢田、木村、小竹、宮本も走る。だが矢田だけはポケットに手を突っ込んで何故か微笑し微動だにせず、木村に肩を押されながらMAHO堂へと向かっていた。SOSTリオ合流後も同様で、同時期家を飛び出したどれみ母らとは対照的に、能気な反応である。

ところがMAHO堂に駆け付けた瞬間、矢田のポーズ、表情はそのままながら、頬に二本程青線が入っている。もしかしたら、魔女をお化けのようなものとみなし、腰を抜かしたから微動だにできなかったのかもしれないが、それすら想像の域を出ない。

その後、クラスメートと共に決定的な姿を目撃。

小竹、矢田、SOSTリオ、玉木、まりな、ななこ、信子、島倉『うわあああ
ああ………』

なお木村たかお(および、声優の山崎みちる氏)の名前はEDクレジットになく、台詞はない模様。

2 小学4年生編

#3話「眠っちゃダメーぼっぶの見習い試験」
(2000年2月20日放送)

無印51話「おんぷならMAHO堂」

(2000年1月30日放送)

OPパート

前回のおさらい。同シーンが流れる。

小竹、矢田、SOSトリオ、玉木、まりな、ななこ、信子、島倉『うわあああああ………』

その後、おんぷ最後の禁断魔法をかけられ、その日の記憶を失う一同。
翌日の教室。皆、記憶がないことを不思議がる。

玉木「何故あんな汚いところで寝てたのかしら」

小竹「何か思い出せたかまさる?」

矢田「……全然」

どれみ、はづき、あいこがやる気なく「おはよう」と入ってくるのを見つめるも。流石の彼も今回ばかりは何も言えないし、気付けない。

小竹、矢田、玉木、島倉『はあ……思い出せない』

なお、木村たかおも一緒にうつむいているのだが、口元が小竹の髪に隠され動いているかは不明。前話同様、木村(および、声優の山崎みちる氏)の名はEDクレジットになく、最終回で台詞は与えられなかったようだ。
そしてこれが、無印における矢田の最後の出番となる。

OPパート

『フラワーガーデンMAHO堂、新装おめでどう!』と、どれみ、はづき、あいこ、おんぷ、小竹、SOS、玉木、そして矢田が、店前で記念写真を撮る。他にもカメラ担当の島倉。そして画面には、ななこ、むつみ、中田、樋口、宮本、柳田、山内の姿が見える。そんな中、一人頬杖をつけて座り佇む矢田。

花壇の前で座り込む矢田に、どれみが近付き。

どれみ「これ飾っとくと、お化けが怖くなくなるおまじないかかってんだよ?」

矢田「うわ、マジ?」

矢田には珍しい、大口を開けた笑顔のレアショット。触覚もピンと直線に立っている。

どれみ「ウッソ♪」

花壇に突っ伏す矢田。

その他、ぼっぶとケンカしたせいかな? ハナをあやすのに失敗するどれみに、呆れて苦笑。はづきに抱かれ笑顔のハナを見て微笑む姿も。

#6話「意地っぱりとデイジーの花」とば
(2000年3月12日放送)

OAパート

何やらあつた様子のまりなの話を、ベンチで聞くはづき。

まりな「はづきちゃん、矢田くんにブスって言われたことある?」
はづき「え?」

それだけで、全てを察するはづき。

はづき「木村くとケンカでもしたの?」

まりな「あ……」

はづき「ケンカ、したのね」

その後事情を知り、木村に激怒するはづき。

一方その頃、河原でトランペットを吹く矢田。

木村「へたくそー!」

矢田「ん?」

木村「よう!」

矢田「あ……」

橋から声をかけた木村、矢田の隣で座り込む。

木村「ん……んん……んん……ん」

矢田「……………はあ。俺、帰るわ」

木村「お、お前さ、藤原にブスって言ったことあるか?」

矢田「は?」

木村「ハッハッハッハッ……どうなんだよ!」

矢田「何言ってるんだよ、お前」

木村「例えはさ………、例えは………例えは! お前が藤原に、ブスって言ったとするだろ!? そしたら………だとしたら、どうする?」

矢田「言わねえ」

木村「だつ——例えばって言ってんだろ?」

矢田「小泉とケンカでもしたのか?」

木村「ぬ、ぬわ、何言ってるんだよ、お俺は別に……………」

矢田「凶星かよ……………」

木村「……」

矢田「そつかもしれねえな」

木村「え?」

矢田「辛気臭いし、前髪も一直線だし。確かに、小泉ってブスカもな」

木村「小泉のどこがブスなんだよ!」

矢田「お前がブスって言ったんだろ?」

木村「う!? ……何であんなこと言っちゃまったんだろ……」

矢田「お前、バカじゃねえの?」

木村「!?」

矢田「だったら、謝っちゃえばいいじゃん」

木村「!! ……ま……ま……」

矢田「あ?」

木村「サンキューな!」

矢田「別に……」

はづき以外の友人にも、助言できるようになった矢田の進歩が伺える。

なお、矢田とはづき、木村とまりなが、双方互いの関係をごく自然に照らし合わせた理由は、もろっと! 36話で明らかになる。

＃15話「母の日とお母さんののがお絵」

(2000年5月14日放送)

OAパート

凶工の時間。

「ステークを描きたい」というどれみの冗談に微笑むも、玉木の「次の日曜は母の日だからママの絵を描いたらいいと思います」との発言に、顔をしかめる。表情を暗くするしおりを見つめる矢田、関先生。はづきも気付き拳手しようとするも、敢えて関先生は玉木の案を承諾する。
筆をトントンとするのみの矢田、しおりをチラ見。筆の動きを止め、そこから視線を逸らせずにいると、しおりが一粒の涙を落したのに気付く。

矢田「あ……！」

関先生に視線を移すも、しおりのほうを見ていない。何かを決意し、赤い絵の具で直接画用紙に塗りたくる。

しおりがなおも涙を落とす中、ランドセルを抱えて立ち上がる矢田。

関先生「どうした、まさる？」

視線を集める矢田。しおりは独り涙をぬぐい、遅れて矢田に向き直る。

矢田「……フン！」

そのまま教室を出ようとする矢田。矢田の画用紙に描かれた、へのへのもへじに気づき呼びとめる関先生。

関先生「待ちな、まさる！ どういうつもり、こんな絵描いて？」

矢田「こんなくだらない授業やってらんねんだよ」

どれみ、あいこ『ああ……』

関先生「くだらない？」

矢田「ああ！ くだらないね！」

憤怒の表情を露にする矢田。

関先生「まさる！ ちょっと待ちなよ！」

再びうつむくしおり。心配そうなはづき。

外に出ていく矢田を、再び引き留める関先生。

関先生「待ちなよ、理由を聞かせてよ」

矢田「中山の母さん」

小さく驚く関先生。しおりのことに矢田が感づいた、そのことに対してか。

矢田「小さい時に死んじゃったの知ってたろう」

関先生「ああ……」

矢田「じゃ、何であんな絵描かせるんだよ」

関先生「……」

矢田「中山、ずっとうつむいて、全然何にも描けなくてさ。そっぴう気持ち、わかると思ってたよ！」

関先生「まさる、それはね——」

話を切り上げ、走り去る矢田。「何でも話し、思ったことはぶつける」の教えは、師の思いもよらない形で守られた。

関先生「あ、まさる！」

放課後、MAHO堂にて。「今日は久々に、不良矢田まさる復活——ゆう感じ」と語るあいこ。どれみも、「随分機嫌が悪かった」と同意。

心配そうなはづきの心を感じ取ったか、ぐずるハナをあやすはづき。

はづき「……ごめんね、何でもないのよ」

どれみ「あ、そういえば、矢田くんとお母さん、本当のお母さんじゃなかったよね？」

あいこ「え、そうなん？」

はづき「うん、幼稚園の頃お母さんが交通事故で亡くなって」

あいこ「お父さん再婚したんや」

どれみ「今のお母さんと上手くいってないのかなあ、矢田くん」

はづき「そんなことないと思う。授業参観にもちゃんと来てるし、一緒にお買い物してるところ見たこともあるし……」

どれみ、あいこ『ふーん……』

その後、MAHO堂に入荷した母の日のカーネーションが、赤白二種あることへの話題に。亡くなった人に白いカーネーションを贈る外国の習慣からきているのだが、別に赤いのもいいのではと疑問を呈するあいこ。

翌日。通学路の途中で、父の車から降りてもらったしおり、駆け出した先は美空市立公園。

しおり「サボっちゃった、どうしよう……?」

と、滑り台の天辺から覗く、寝そべり組んだ矢田の足に気付く。

矢田も近づくしおりを察知し、起き上がる。驚くしおり。

しおり「あ!」

矢田「中山。学校サボりか」

しおり「あ……うん」

うつむいたままのしおりに、矢田は誰に対してもなく吐き捨てる。

矢田「ったく、どのどいつだ」

しおり「え?」

矢田「母の日なんて作った奴は、俺は好きじゃないなあ、母の曰って」

しおり「私と同じ……」

こうして矢田としおりは、自分たちが似た境遇だと知り、心を通わせる。

そんな二人の姿を、遅れて登校するおんぶが車中から目撃した。

そして教室に着いたおんぶ、どれみからこっそり事情を聞く。矢田としおりが、無断欠席したと。授業も上の空な関先生。

玉木「先生、家のかたには連絡されたんですか?」

関先生「ああ、二人ともいつも通り家を出てる」

太田「もしかして二人でデートお!?」

佐川「やってくれますクリスマスス〜!」

はづき「不謹慎なこと言わないで!」

SOSTリオ『モッチーモッチーモチかして、モッチー焼きもち焼いてんの〜?』

はづき「そんなんじゃない、私は——」

関先生「はい静かにして。SOSもふざけ過ぎだよ」

SOSTリオ『は〜い〜……』

そして、おんぶの目撃情報を聞き、授業を自習にして駆け出す関先生。どれみたちも、変身した妖精に後を任せ、ほうきで公園へ向かう。

美空公園にて、遊具の網に寝転ぶ矢田。近くの石に座るしおりに語る。

矢田「ウチってさ、あんま好きな言葉じゃないけど、継母なんだ」

しおり「あ、そうなんだ……」

矢田「別に、仲悪いとかさうゆうのものないんだけど、でも周りってすっごくいい遣っじゃない」

しおり「……そうそう」

矢田「特に母の日。最低」

しおり「うん」

矢田「だから嫌いなんだ」

しおり「私もそう、同じ。お母さんが居なくっても平気って思ってるのに、同情されると……」

矢田「わかるわかる」

しおり「皆優しい気持ちから、同情してくれるのわかるんだけど……何か悲しくなっちゃうの」

矢田「ほっといってくれればいいんだよ、母の日が終わるまでさ。」

そんなこと関先生なら、わかってくれてると思ってるのに。平気でさ、母の日だからって母さんの絵描かせるんだからさ、最低だよ！」

関先生「最低で悪かったね」

矢田「！ 関先生……」

息を荒げて駆け付ける関先生。

OBパート

どれみ一行も到着、草むらに隠れて様子をうかがう。

関先生「お母さんの絵を描かせたことで、辛い思いさせた？ だったら謝るよ、ごめん」

頭を下げる関先生。しおりが何か言いかけるも、矢田が遮る。

矢田「今更謝ったって遅いよ」

しおり「あの……」

矢田「俺たち学校には戻らねえからな」

しおり「あ、じゃ私も……」

関先生「先生も、父の日に良くサボった」

矢田、しおり『え？』

関先生「先生は子供の頃、お父さんを亡くしてるんだ。」

教師やっててね……とっても厳しいお父さんだったんだけど、あたしは大好きだった。だから、亡くなってから何年かは父の日が来るのが、物凄く嫌だね。

お前たちと同じように……せつかく悲しいのこらえて頑張ってるのに、同情されるとそのたびに、もうお父さんは居ないんだって思い知らされるみたいだね、余計に悲しかった」

矢田「そこまでわかってて、ぶっつしてお母さんの絵なんか描かせるんだよ」

じつと関先生の顔を見て話を聞くしおり、尚も関先生のほうを向かない矢田。

関先生「現実にはね、片親というところで、もつと辛い目に遭うこともあるんだ。」

私がここに来る前、ある私立小学校の先生になる試験を受けた時ね。父親が居ないだけで、落とされたんだ」

矢田も顔を向ける。過去、面接で「児童の父兄の中には、そういうことで不安になられるかたもいますんでね」と言われたことを回想する。

関先生「先生の友達で、やっぱり同じ理由で、就職試験に落ちた子もいるんだ」しおり「そんなの！」

矢田「バツカみてえ」

関先生「ホント、バカみたいだし、ふさげるなって思う。だろ？」

うなづく矢田、しおり。

関先生「でも、残念だけど世の中には、そういう学校や会社があるのも事実なんだよ。でもね……」

それでクヨクヨしても、ダメだと思っただよ、先生は。

片親だっていいじゃん、たとえ両親とも居なくなつて、何が悪いんだ。こっちはその分頑張つてんだって、胸を張って堂々としていたいじゃないか。

中山の気持ちはわかってる。けど、先生敢えてお母さんの絵を描かせたんだ」

どれみたちも聞き入る。関先生の視線の先にはベビーカーの母子の姿が。

関先生「母の日は毎年やってくる。なのに、そのたびに落ち込んだり悲しんだり、天国のお母さんも悲しいだろう？」

母の日にはさ、お母さんに、あたし元気にしてるよ、心配なくていいよって、そう言えるような、強い人間になつてもらいたんだよ。お前たちにはね」

泣きはらすしおり、涙を浮かべる矢田。瞳を潤ませるどれみたち4人。
そこに、二人の親が駆け付ける。無印17話で語られた矢田母、最初で最後の登場。昨年の事件ではニコニコしていたらしい矢田母だが、今日は心配そう。

しおりの父「しおりー！」

矢田母「まさるる？」

しおり「パパ……」

矢田「母さん……」

しおりの父「しおり、学校をサボるなんて——」

関先生「お父さん、怒らないでください、あたしがいけなかったんです」

しおりの父「え？」

関先生「事情は後で説明しますから」

しおりの父「ああ……」

矢田母「……」

うなづく二人の父母。

関先生「二人共、お父さんお母さんに心配かけたんだ。謝ろうか」

矢田「うん」

しおり「はい」

矢田、しおり『「めんなさい」』

しおりの父「あ、いや……」

矢田母「まさる……」

関先生「心配してるのは、まだ他にもいるよ？」

矢田、しおり『「え？」』

関先生「お前たち！」

どれみ、はづき、あいこ、おんぶ『「あっ——」』

矢田「あ！」

どれみ、はづき、あいこ、おんぶ『「えへへ……」』

あいこ「バレてたんか」

しおり「皆、心配して来てくれたの？」

どれみ「しおりちゃん、元気出してね！」

しおり「ありがとう」

はづき「まさるくん、昨日のことはしおりちゃんのこと考えて？」

矢田「え、あ、まあな。中山の画用紙見たら、真っ白だったし。それに——」

しおり「あ、見られちゃったんだ。でもあれは、ママの絵を描くのが辛くて泣いてたんじゃないの」

母親の顔がポーツとしか浮かなかったしおり。そのうち、顔をすっかり忘れちゃうのかなと思いい、だんだん悲しくなったというのだ。

死んだ母のことを思い出して、悲しい思いをしないように、母の写真をしまい込んだせいでと謝るしおりの父。その気持ちはわかっているから、としおり。しおりを抱きしめる父。それを見て、矢田も。

矢田「中山だけじゃねえよ。俺もさ、死んだ母さんの顔が、だんだんポーツとしてきてさ」

関先生「それって今のお母さんが大好きってことだよな？」

矢田母「ええ？」

矢田「え!? 先生、俺は、別に……」

あいこ「素直やないなあ」

どれみ「そっだよ、心配して来てくれるお母さんの顔、へのへのもへじに書いてちやつてさあ」

矢田「うわああ余計なこと言うなよ春風！ ああぶざけんなつ、俺先に学校行ってるからなあ！」

真っ赤になってその場を去る矢田、笑い合う一同。矢田母も口元を押さえた笑顔で、全出番終了。

母の日セール当日。ぽつぷを加えた一同が忙しなく働き、1本買おうとする小竹や100本お買い上げな玉木の姿も。

はづき「ありがとうございます。……あ」

矢田「よう」

はづき「まさるくんいらつしやい」

矢田「藤原、ピンクのカーネーションってないの？」

はづき「あるけど、どうしてピンクなの？」

矢田「……死んだ母さんと今の母さんと、両方に贈ろうと思うんだけど」

顔を赤らめる矢田に、うなずくはづき。

矢田「赤と白と別なの贈るのがさ、その、何て言っか」

はづき「それなら別のお花にしたら？」

矢田「別の？」

はづき「これ。ベチュニアっていう花よ。花言葉は『あなたといると心が休まる』
って言っの」

矢田「ふーん、じゃあ、これ」

はづき「ありがとうございます！」

その後来店したしおりにも、マジカルステージを込めたエーデルワイスを贈る。

矢田、母親にベチュニアの鉢植えを贈る。喜ぶ顔を見せる母に、真っ赤に照れながらすぐさま台所を去る。

おんぶ、はづき、あいこ、どれみとぼっぶ、しおりが贈る姿で劇終。ちなみにハナからも、DVD3巻のジャケット表紙絵で贈られている。

＃19話「どれみとはづきの大げんか」

(2000年6月11日放送)

OAパート

どれみとはづきのケンカは、予想外に長続きしていた。

関先生が出席を取ろうとすると、はづきが挙手。どれみの隣は嫌だと言い出し、誰かとの席替えを提案する。どれみも追従し、驚きの声を上げるクラス一同。矢田も視線をはづきらのほうへ向ける。関先生、ケンカしたのだと察する。

関先生「しやうがないね。まさる！ 藤原と換わってやって？」

矢田「えー」

あいこ、おんぶ『関先生！』

関先生「二人共離れて、少し頭を冷やしたほうがいいよ」

あいこ、おんぶ『……』

矢田「ったくメンドクせえなあ……」

はづき「ごめんさー」

矢田「ん？」

はづき「……」

矢田「別に」

右眉をピクリと動かし、席を換わる矢田。

休憩時間中、心配するクラスメートたちの中に、矢田の姿はない。以後の出版は、全て幼少の頃の回想シーンのみ。

OBパート

仲直りさせる作戦は失敗、MAHO堂に戻り嘆息するあいこ、おんぶ、ぼっぶ。そこにななが現れ、同じソナチネ幼稚園に通っていたこと、以前も二人がケンカして口もきかなかったことがあると、過去を回想し話し出す。

はづきが可愛がっていたウサギにラクガキをしたどれみを責めるはづき、その場はどれみが泣いて謝り収まった。

が、後に、はづきが風邪で休んでいた時、誰かがウサギ小屋の扉を閉め忘れて、ウサギが野良犬に噛まれてしまう。それを悲しむ園児たちの中、どれみから見て左隣に矢田の姿があった。背後にはななこの姿もある。

うさちゃんの墓で手を合わせる一同。と、どれみが提案した。

どれみ「ねえ皆、うさちゃん死んじゃったことはづきちゃんに黙ってあげようよ」

矢田「何でだよ？」

先と同様に、どれみの左隣の矢田が尋ねる。

どれみ「うさちゃんを一番可愛がってたのははづきちゃんだよ？ 死んじゃったの知ったら絶対泣いちゃうよ。可哀想だよ」

矢田、ななこら園児たちと幼稚園の先生『うん……』

うさちゃんは、お母さんウサギが迎えに来て、一緒にお家に帰ったと、はづきに説明するどれみ。

だが夕方、はづきはうさちゃんの墓を発見。どれみがウソをついたと怒り、どれみもその場から走り去ってしまう。

独り教室でピアノの鍵盤を押すどれみ。そこに、事情を説明されるはづきの声がかぶる。

ななこ(う?)「はづきちゃん、どれみちゃんははづきちゃんのことを思って、ウソをついたのよ？」

はづき「え？」

矢田「本当だよ。実は——」

幼稚園時代から矢田は、はづきをフォローしていたのである。そして、はづきがどれみの元へ現れ、謝罪するのだが。

はづき「まさるくんから話は聞いたの。ウソつきなんて言って、ホントに「めんなさい……!!」

「まさるくん」から聞いたという事実しか、はづきは認識していないようである。これではななこの立場がない。

というか、上記の台詞がななこのものであるというのは、ななこが事情を知っているという事実(および著者には似た声質に聞こえること)から推察したものであり、話している姿は見えないので正しい情報かどうか不明確である。もしかしたら、幼稚園の先生の声だったかもしれない。

その後、過去でも現在でも、二人が仲直りしたのは言うまでもない。だが、矢田が手助けしたのは過去のみ。いつもいつも世話を焼く気はないようだ。

#29話「きもだめしでみんなが消えた!？」

(2000年8月27日放送)

O A パー ト

夏休み恒例の、山内寺の肝試し。どれみ、はづき、あいこ、小竹、矢田、SOSTリオ、信子、島倉の前回のメンバーに、おんぶと玉木も参戦。ちなみに今回「たのも〜!」と叫んだのは、小竹のみ。

一堂での怪談大会開始。人魂はおろか、地獄耳までプラズマだと決めつけ水を差す玉木に、不機嫌な一同の中の矢田。はづきだけは怯え切っているが。

島倉の番。廃校で次々と消えていく子供たちの話。そして最後の一人も消えたと語ったその瞬間。

玉木「この話はウソよおおく!!」

はづき「ううう……………」

どれみ、あいこ、おんぶ、信子『イヤあああ!!』

小竹、SOSTリオ、信秋『うわあああ!!』

矢田「今年も……腰……抜けた」

倒れ込むはづきの後ろで、今年も腰を抜かす矢田。

続いては肝試し開始。怖気づいたから帰ろうとするはづきを引きとめるどれみたち。その騒ぎを側で耳にしつつ、少しずつ後ずさる矢田。

はづき曰く「あの時はどうしようかと思っただわ」、とのことだが、女子のトイレに付き合わされる男子というのも実に珍しい光景であり、二人の特殊な関係が見て取れるかもしれない。違つかもしれない。
そして、独りぼっちになり絶叫する玉木のもとに、はづきおよび一同と共に姿を現わし無言で首をかしげ、出番終了。

#32話「とんだけ」ユー・ド・ドたちの大变身」
(2000年9月17日放送)

Oパート

さらわれたハナを探し、街中を探しまわるはづき。既に任務完了していながらも、はづきに同行してしまうフジオ。
とある交差点で、偶然はづきとぶつかった矢田。

矢田「！ 藤原」

はづき「まさるくん」

矢田「どうしたんだよ、そんなに慌てて」

はづき「ごめんなさい、今急いでるの！」

矢田「？ 変な奴」

フジオを残し去っていくはづき。残された男たちの戦いが始まる。

フジオ「君は、彼女の何なんだい？」

矢田「ああ？」

視線をぶつけ、火花を散らす両者。

矢田「おめえこそ何なんだよ」

フジオ「僕かい？ 僕はただの客さ」

矢田「はあ？」
フジオ「人間界ではああいう男が主流なのかな？ だとしたら、覚えておかないと」

そうつぶやきながら、はづきの後を歩いて追うフジオ。

前哨戦終了。本格的な対決は、2年後の修学旅行編まで先延ばしされる。

「MAHO堂 CDコレクション ソロ 藤原はづき」
(2000年10月4日発売)

Oミニドラマ「はづきの長い長い一日」

色々あって、ハナをどれみから預かったはづき。

人が来ない草むらで魔法を使いコンロと鍋を出し、手際よく変身を解き。外に持ち出した哺乳瓶を温め、人肌に冷ましている途中、矢田と遭遇。

矢田「あれ？ 藤原？」

はづき「ま、まさるくん……どうしてここに？」

矢田「別に、ブラブラしてただけ。お前何やってんだ？」

はづき「え？ あの、えっと……ミルクを温めてただけど」

矢田「こんなところで？ このカセットコンロと鍋もお前のか？」

はづき「え……あ、うん。いつでもどこでもハナちゃんにミルクを飲ませられるように、いつも持ち歩いてるのよ？」

矢田「ふうん、子育てって大変なんだな」

はづき「そ、そうなのよ。ホントに大変で——」

ハナ「っ、あい、あい、あーい——」

はづき「……ハナちゃん！ 暴れると危ないわ、落ちちやう！」

矢田「ミルクが出来るまで、ハナちゃん抱いててやるっか」

はづき「いいの？ じゃあお願いしていい？」

矢田「……うん」

ハナ「いひひひ、あいー。いひひひ、いー……」

はづき「ハナちゃん喜んでる！ まさるくんのが気に入ったみたい！」

矢田「そっか？」

はづき「うん！ ようし人肌になったわ、ハナちゃんミルクが出来ましたよー」

そこにあいこが駆け付ける。はづき、事情説明。

あいこ「そっか、まあ無事で良かったわ。あ、矢田くんも一緒やったん？」

矢田「ああ」

あいこ「……はぁーん？」

矢田「……何だよ、人の顔じろじろ見て」

あいこ「そやって赤ちゃん抱いてると、お父ちゃんみたいやな。おまけに、はづきちゃんと並んで、お似合いの夫婦やん」

はづき「あ、あいちゃん……」

矢田「バ、バカなこと言うなよー」

まんざらでもなさそうな声のはづき。絵がなくても表情が想像できる矢田。

あいこ「ははは、まあまあ照れることあれへんやん。せや、ハナちゃんがおつたらゆつくりでけへんやろ、あたしが預かって散歩させるから、お二人さんこゆつくり。ほな！」

ハナと共に去っていくあいこ。

はづき「あ、あいちゃん！ ……あ……あの、まさるくんごめんね」

矢田「別にお前が謝ることじゃないだろ」

はづき「そうだけど……あ、ハナちゃんにミルク飲ませられなかったわ！ せっかく温めたのに……」

と、草むらから物音が。葉っぱだらけの姿で現れたおんぷを心配するはづき。

おんぷ「え、ああ、色々あって。あら、矢田くんも一緒？」

矢田「いよう」

おんぷ「二人して、こんなひと気のない茂みで何やってるの？」

はづき、矢田「え？」

おんぷ「もしかしてあたし、お邪魔だったかしら」

はづき「お、おんぷちゃん勘違いしないで。そりゃあいちゃんにはお似合いの夫婦とか、理想のカップルとか、ラブラブで羨ましいとか言われたけど」

矢田「そ、そこまで言われてないだろ！ 俺帰る！ じゃあな」

はづき「あ、まさるくん、待って！ ……行っちゃった、怒らせちゃったかな」

この頃はもう、あいこたちからも「そう」認識されている矢田であった。

一方のはづきも、矢田への意識を随分強めているのだとわかる。

#38話「はづきちゃんは名監督！」

(2000年11月12日放送)

美空小学芸祭に出演する演劇「カリスマ配達員」の監督に推薦されるはづき。小泉まりなも、細かいところも良く気が付くからきつと上手く出来ると勧め、なし崩しではづきが監督に決定される。だが、監督とは何をすればいいのか、さっぱりわからず悩むはづき。

その後も空回りを続けるはづき。練習中、主人公がライブル会社の回し者に襲われるシーンで、矢田登場。ここで彼がキャスティングされていたと初めて発覚する。

矢田「ちょっと待ちな」

杉山「な、何者だ」

矢田「悪いが一曲吹かせてもらっせ」

人差し指をチツチツと振り、トランペットを構える矢田。結構ノリノリである。が、そこで表情を暗くし、我に返る。

3 小学5年生編

矢田「……何で俺がベツト吹かねえといけねえんだよ」
はづき「さ、さあ……信子ちゃんが書いたことだから」

矢田「はあ……。お前、それでも監督か？」

矢田にも直言され、ますます落ち込むはづき。

ちなみにこの話での台詞は以上であり、また井全編での台詞も以上である。つまり、この話で矢田ははづきに苦言を呈したのみで、後は何もしなかったことになる。敢えて突き放し、はづきの大親友たちに任せる。彼もまた、自分の出る幕を冷静に見極めているのだ。

なおBパートでは、おんぶが映画会社側の不手際による仕事の都合で、主演を降板すると謝罪するシーンで、一瞬だけ驚く矢田の姿が見切れるのだが、その色設定が違う。ごくごく初期の、無印5話以来の不手際である。

青を基調にしたそのシャツは、肩口から下、袖の裏側、胸のポケットのみ赤い、「宮本まさはる」のシャツに近い配色。また、髪も緑でなく黒っぽい。別にこの日は違うシャツを着てきたわけではなく、後のシーンで玉木の後ろに座っている矢田の格好はいつも通りである。2年目にしては珍しいミスなので、ここに特記したい。

そして本番当日、舞台には紫のピエロの格好でトランペットを吹く矢田の姿が。何故トランペットを吹く必要があったのかは、結局本編中で明かさずじまいであり、それこそ横川信子のみぞ知る事実になってしまった。

また、次シリーズ『もくつと！』では、声優の宮原永海氏が飛鳥ももこ役を担当するため、役名の併記を減多にしない『どれみ』において、「矢田まさる」の名がクレジットに登場するのは、TV放送ではこれが最後となった。

もくつと！1話「どれみ、嵐の新学期！」

(2001年2月4日放送)

○Aパート

クラス替えにより、どれみだけ1組に孤立することに。そして。

矢田「1組か」

はづき「まさるくん」

矢田「あ……藤原」

どれみ、おんぶ「んー？」

はづき「クラス別々ね……」

どれみ、おんぶ「んんー？」

矢田「ん……仕方ねえな」

おジャ魔女的顔芸に染まったおんぶと共に、無言で二人を冷やかすどれみ。

もくつと！3話「大キライ！でも友だちになりたい！」

(2001年2月18日放送)

○Aパート

転校したばかりのももこに、何度となく突っかかり孤立を強める玉木。

クラス委員選挙で、20対2で林野まさとに敗れたのにショックを受けた玉木は、旧4年2組の人たちを集合させる。が。

玉木「……矢田くん！わたくしの声が聞こえなかったんですの？」

矢田「別に？トイレ」

玉木「まあいいわ、矢田くんは白紙だったことはわかるから」

矢田まさるはクールに去るのである。

もっつと！4話「よっこそスウィートハウスへ！」
(2001年2月25日放送)

○Aパート

新装開店し大盛況の、スウィートハウスMAHO堂。が、おんぷが仕事で帰ったら、一気に閑散とし出す。空いているうちに、菓子の補充をしていると。

矢田「おい、いるか？」
はづき「みんな！来てくれたんだ、いらっしやい」

矢田、そして玉木、まりな、信子、なおみが開店祝いに駆け付ける。……男子は矢田独りだけである。

パティシエ服、店内設備を紹介するどれみたち。

矢田「うーん……んー」
あいこ「どうせやったら、はづきちゃんが作ったクッキーがええんとちやうん？」

矢田「べ、別に？」

どれみ「だったらあたしが作ったクッキー買って？」

矢田「……やっぱ藤原のいいや」
はづき「うふふ」

ほとんど完売なのだが、どれみのクッキーだけ1枚も売れていないのである。その後も女子だらけのお客と店員の中、テーブルで男独りクッキーを頼張る矢田の姿が。女子からも受け入れられ始めた、ということだろう。

尚、後に小竹率いるサッカー部の面々が、矢田に話を聞いてクッキーを買い

に来たおかげで、どれみの分も売り切れた。矢田が気を遣ったのかもしれない。

もっつと！5話「SOSトリオが解散!？」
(2001年3月4日放送)

○Aパート

バスケットボールの授業で、ももこがその運動神経をアピールする一方。ごくごく真面目にドリブルして通り過ぎる矢田の姿も。右手から左手にボールを自然に移すなど、運動神経はケンカ以外でも発揮している模様。

さて佐川太田に裏切られた杉山、自分も1組で新しいお笑いチームを作ると宣言。中島正義、林野まさると断られ続けた彼が、無謀にも声をかけたのは。

杉山「矢田、あのさあ」

矢田「やだ」

杉山「まだ、何も言っていないじゃんか」

矢田「どうせロクなことじゃねんだろ？」

そこまで付き合いいいわけではないらしい。

もっつと！9話「はづきとまさるのたからもの」
(2001年4月1日放送)

○Aバンタイトル

幼稚園の頃の話。泣きじゃくるはづきに、鳩笛を差し出す矢田。

はづき「うっ……うっ……うっ……うっ……うっ……うっ……」

矢田「やるよ」

夕陽の中、帰り道。いつもの橋の上で、矢田の後ろで鳩笛を吹きながら歩いているはづき。涙はすっかり乾いており、笑顔で飛び上がる。

はづき「うわーい！ 鳩笛さん、今日から私の宝物よ！ うふ」

○Aパート

はづきの家に招待されたももこ。はづきの部屋の本棚にかけられている鳩笛を欲しがるももこに、「戸惑いながらも「貸してあげる」とはづき。

だが、まだ日本語が学び切れていないももこには通じなかったようで、翌日1組の教室に鳩笛を持ち込んだ彼女は「はづきちゃんにもらったの、昨日」と勘違いしている。だが、嬉しそうに抱きついて英語で礼を言うももこに、説明し損ねるはづき。

その一部始終を見ていた矢田は、無言で立ち上がり。はづきを一瞥した後、去ってしまう。

休憩時間、なわとびで遊ぼうと集まるどれみたち。

が、1組の教室で小竹、杉山と会話している矢田の後ろ姿を見、立ち止まるはづき。しかし矢田は、やはり無言ではづきを見遣るのみ。はづきの呼びかけを無視し、駆けて行ってしまふ。矢田、ここまで全くの無言。

事態は進展のないまま、翌日朝。いつもの橋に矢田を呼び出すはづき。

矢田「何なんだよ、話して」

はづき「あ、あの……まさるくん、怒ってない？」

青筋マークが額に浮かぶ矢田。

矢田「俺が？ 何でだよ」

はづき「私、あの鳩笛——あ、まさるくんちよっと待って!!」

話も聞かず走って去っていく矢田。そこにどれみたちが駆け付け、矢田とケンカでもしたのかと聞かれるも、何でもないとはづき。だが一同は不安顔。MAHO堂でも調子の悪いはづきを見て、何かあったと確信するどれみたち。

○Bパート

早退したはづきを除く4人で、『マジカルステージ』はづきちゃんの悩みを教えて!』発動。と、突如ももこの持つ鳩笛が光り始め、宙に浮き喋り出す。曰く、元々は矢田の鳩笛だったらしい。

そして、鳩笛の解説による回想シーン。幼稚園の頃、手をつなぎ夏祭りを楽しむはづきと矢田。矢田が輪投げで当てた8等賞が、鳩笛だった。その日から矢田の鳩笛になった彼は、はづきとも一緒に楽しく遊んでいた、が。

ある日、あの橋の上にて。強風が、はづきの白い帽子を吹き飛ばしてしまふ。

はづき、矢田「あ……」

はづき「……んっ！」

矢田「あ！」

追いかけようとするも、転んでしまうはづき。落ちた帽子を見つめ、泣きじやくる。矢田が追いかけようとするが、はづきは矢田の服をつかんで止める。

矢田「でも——」

はづき「うあ——ん、うああ——ん！ うっ……うっ……うっ……うっ……」

矢田「やるよ」

はづき「？」

矢田「でも、誰にも秘密だから」

はづき「うん……」

その日から鳩笛は、はづきの宝物になった。と、回想シーン終了。

ならば何故、宝物をあげると言ったのか？ 自分が勝手に貰ったと勘違いしたと気付いたももこは、「僕をはづきちゃんのところへ帰らせて——」と言い残し魔法が解けた鳩笛の願いを叶え、矢田とも仲直りさせることを決意する。

いつもの河原。地面を踏みリズムを取って、「キラキラ星」を吹く矢田。そこに駆け付け、橋の上から声をかけるももこ。

ももこ「あ、矢田くん」

矢田「……飛鳥」

以下、同一声優による、両者初の会話シーンである。

ももこ「よかった。今はづきちゃんに、これ——」

矢田「あ！」

ももこ「私返すわ。はづきちゃんの宝物、矢田くんがあげた——」

その言葉に、トランペットを強く抱える矢田。

矢田「……何で知ってるんだ？」

ももこ「え？」

矢田「何で俺があげたって知ってるんだよ」

ももこ「あー、その魔法……あー、じゃなくて——」

矢田「藤原が喋ったのか」

ももこ「NoNoNo, I don't mean that! How can I explain?」

と、そこに通りがかったはづき。

はづき「やつぱりももちゃんにはちゃんと話をしよう。それで今日こそ鳩笛返してもらわなきゃ！」

矢田「そっなんだな」

橋の下の矢田、ももこに気付くはづき。

矢田「あいつ約束したのに」

ももこ「だから、あの……Ah, How can I do?」

矢田「でも、もう、こんなもの、どうだっていいよ！」

ももこから鳩笛を奪い取った矢田は、鳩笛を川に投げつけてしまう。

はづき「鳩笛が……」

矢田「！ 藤原」

ここにきてようやく、矢田がはづきに気付く。

はづき「どうして？ あれは私たちの大切な！」

矢田「誰にも秘密だつて約束したのに！ お前が飛鳥に話しちゃったからだろ？」

はづき「ももちゃんに？」

はづき「あ、魔法で——」

ももこ「はづきちゃん、ごめんなさい。あたし——」

はづき「いいの、私がいけないの。私が早くももちゃんに言わなかったから、私の大切な宝物だから返してって」

そしてはづきは、ももこと矢田が面食らう中、躊躇なく川に飛び込む。水面の位置は膝下程度だが、靴を脱いだ描写はない。

ももこの静止を断るも、川で転び、ずぶ濡れになってしまふはづき。

驚く矢田、足を踏み出そうとするも、あと一步で止まる。だがももこは、魔法を使わず、自分の力で探したいはづきを助力すべく川に入る。

それでも矢田は顔を背ける。だがこれまでのはづきの行動を思い返す。何度も自分に話そうとした彼女を拒否したのは自分からだ。彼女の言葉を聞くこととせず、信頼を裏切ったのは、自分だったのだ。

自分が「何でも話し、思ったことはぶつける」だけでなく、相手がぶつけてきたことにも応えようと、彼は決心した。

矢田「俺も、探すよ」

目を閉じ腹をくくった矢田が、長スボンのまま川に入る。
はづきの頬に、涙が伝う。戸惑う矢田。

はづき「……………うん！」

矢田「……………お、俺が投げたんだから」

ももこも笑顔に。身を隠しながらバンザイするどれみ、あいこ、おんぷ。

はづき「ありがとう……………」

ももこ「Wow, then you better best friends!
s! 仲直りね！」

はづき、矢田の肩を抱きしめるももこ。顔が接近し、照れ出す矢田。

矢田「……………ななななな、何すんだよお前！ ったく、早く探そつぜ？
暗くなるだろ」

どれみ「おーい、何やってんの？」

ももこ「はづきちゃんの鳩笛探してるの」

あいこ「ほんなやったら一緒に探したるー」

おんぷ「どの辺に落とされたの？」

矢田「俺を中心に……………そつだな、大体……………3、4メートルぐらいかな？
流されてるとは思えねえし」

どれみ「オッケー、じゃあさ、皆横一列に並んで探そうよ！」

6人で探す中、はづきと矢田は、鳩笛の声を聞く。二人揃って、声のした場所を探すと。

はづき、矢田「！ 見つけた！」

一緒に鳩笛をつかみ上げる、はづきと矢田。祝福する一同。

矢田「見つかって良かったな。じゃあな」
はづき「うん……………」

一足お先に帰ろうとする矢田、はづきの吹く鳩笛の音を聞き、橋の上で立ち止まる。それに応え、トランペットを吹く矢田。

二人の音が、夕陽の中で共鳴していく。

もつと！15話「きれいなお母さんはスキ？キライ？」

(2001年5月13日放送)

Oパート

今年も母の日で、お母さんの絵を描くことになった1組。

関先生「お、まさる、今年はなかなかいいじゃないか」

矢田「……………別に」

昨年とは打って変わって、真面目に絵を描く矢田。

が、矢田が絵の出来を確かめている最中。前の席から声がした。

長谷部「何だその絵？ お前、マザコンか？」

矢田と長谷部、最悪のファーストコンタクトである。

席を立つ矢田。表情は見えない。

矢田「ああ？」

長谷部「もつと骨っぽい奴かと思ったけど、ママ、ママとか言ってるんじゃない！」

即右手を握り、長谷部の左頬に叩きつける矢田。騒がしくなる教室。どれみも立ち上がり、矢田のほうを見遣る。

関先生「まさるー！」

ももこ「矢田くん！」

長谷部「やってくれるじゃん、矢田くんよお！」

矢田「うわあっ——」

負けじと頭突きをくらわす長谷部に、矢田も体勢を崩す。

止めに入ろうとする関先生、床に落ちた長谷部の絵に目を止める。へのへのもへじ、昨年の事件は別の人間によって繰り返された。

その絵を踏みつけた長谷部、そして矢田、双方の胸倉をつかみ睨み合い。

そこで関先生、「徹底的に気の済むまでやれ」と、二人を追い込む。気を削がれ、手を離す双方。

矢田「……アホらしい」

長谷部「そんなこと言われて出来つかよお」

関先生「何だい情けないねえ」

と、ここでチャイム。

関先生「はいタイムアップ。さあ2人とも、職員室で先生とデートだ！」

矢田、長谷部『ええー？』

というわけで、デート終了。

事情はわかったが、今日から2人共一週間トイレ掃除だと指示する関先生。気だるそうに嘆息する2人。

関先生「返事は？」

矢田、長谷部『はい……』

と、関先生は先の長谷部の絵を取り出し、真意を尋ねる。その、昨年の自分と同じへのへのもへじに、反応を示す矢田。

矢田「ん……？」

関先生「先生はお母さんに感謝を込めて、絵を描くように言ったんだよ。何でこんな絵描いたんだい？」

MAHO堂にて、事件を回想するどれみ。どうも、久々に生でケンカを見たことで興奮が収まらないらしい。一方はづきは、ちよつと訳ありで別行動。

はづき「ねえ、まさるくん——どんな理由があるにしても、暴力は良くないわ

公園を早足で歩く矢田。その後ろにびったりくっついていくはづき。

3年の頃、矢田が中学生をボコボコにした時、その理由を聞いて激怒していたはづきも成長したようである。矢田に自分の意見をはっきり伝えているのだ。

矢田「藤原には関係ねえだろ」

はづき「でも」

矢田「これは男と男の問題なんだよ」

はづき「暴力を振るうまさるくんなんて、嫌いよ」

矢田「嫌いで結構だよ！」

矢田が振り向くと、そこには涙をいっぱい瞳に溜めたはづきが。

思わず後ずさる矢田。そのまま追いかけてくるはづき。

はづき「うっ……、うっ……」

矢田「おいおい……」

はづき「だっただって」

矢田「ちよつと待て——？」

と、矢田の足に野球のボールが当たる。前を向くと。

長谷部「すいませーん」

矢田「あ」

長谷部「あ、何だお前かよ」

矢田「あ？」

はづきに緊張が走る。矢田があらぬ方向に、ボールを投げようと構えるのを見てパニックを起こすも。

長谷部「わ！ てめえー!!」

矢田「へへ、冗談だよ」

慌てて近づいてきた長谷部のグラブに、ちゃんとボールを返してやる矢田。

舌打ちする長谷部、ホッとするのはづき。そこに駆けてくる長谷部の母。

「お友達？」と長谷部母は聞くも、「そんなじゃねえ」と否定して、長谷部は挨拶もせず母を連れ去っていく。頭を下げるのはづき。

はづき「今の長谷部くんのお母さんかしら？」

矢田「あいつ、あんなにきれいなお袋が居るのに、何でへのへのもへじなんか描いたんだ？」

はづき「去年のまさるくんと同じで、何か訳があるんじゃないかしら」

矢田「ふ、藤原……」

はづき「うふふ」

OBパート

どれみたちの魔法の力で、母の店への想い、そして自分への想いを全て受け止めた長谷部は、MAHO堂に母の日のケーキを買いに来る。そんな長谷部に、一緒にケーキを作らないかと持ちかけるどれみ。

どれみに押し出され、厨房に着くとそこにいたのは、はづきにケーキ作りを教わる矢田。おそらく彼は、長谷部の事情を何も聞いてはいないだろう。

長谷部「あ……矢田！」

矢田「げ、長谷部」

長谷部「俺やつぱ帰るわ」

どれみ「え？」

矢田「お前不器用そうだからな、ケーキ作りは無理だろ？」

長谷部「ああ？ 言ったなてめえ！」

怒り心頭、矢田に詰め寄る長谷部。再びパニックのはづき、どれみも頭を抱える。が、矢田の提案は。

矢田「だったらどっちが上手く作れるか、勝負しようぜ？」

長谷部「おう、望むところだ！」

張り合いながらケーキを作る両者、こうして彼らはケンカ以外の決着の手段を見つけた。だが完成品を見た二人は、すっかり笑顔になっていた。彼らは、似た者同士なのである。

勝敗がどうなったかは不明である。ついでに矢田が矢田母にケーキを贈るシーンも映っていない。

そして、久し振りに母の店を訪れた長谷部、ケーキと花束を贈る。

長谷部の母「たけしが作ってくれたの？」

長谷部「うん……春風たちにも手伝ってもらったけど。あと、バカ矢田」

長谷部の母「お友達？」

長谷部「……うん」

こうして長谷部は、母と和解するついでに、矢田の(ケンカ)友達になった。

ナ・イ・ショー1話「波乱のサイクリング」男の子のなしよ」

○Aパート

5年生の夏休み開始直前。男子トイレでの、小竹たちの内緒話。自転車だけ、自分たちだけで富士山まで行くとう誓ったのだが、内3人に不参加を表明されたのだ。約束より小泉まりなどのデートを優先させた木村。そして彼も。

森川「矢田は？」

矢田「ドイツに行ってる親父が、急に帰ってくるようになってよ」

小竹「そ、それじゃあ仕方ねえなあ」

飯塚「長谷部は？」

長谷部「許してはくれたんだけどよ、お袋目に涙溜めてんだよなあ」

トイレを終えてから話し出す木村、矢田とは対照的に、まだ小用中の長谷部。お袋のキーワードに反応し、長谷部をチラ見する矢田が細かい。

ところで矢田は、手を洗う前にポケットに手を突っ込んでいたのだが、それだと手を洗っても雑菌はポケットに残り、そこにいつも手を入れてる彼は……置いて。怒り出す小竹を止め、あの母親に泣かれたら仕方ないと納得する飯塚けんた、森川だい。

長谷部「悪いな」

矢田「お前長くね？」

長谷部「何が」

小竹「こうなったら、俺たちだけでも自転車富士山に行こうぜ！」

小竹、森川、飯塚『おっ！』

矢田「だから長えって」

長谷部「何が？」

この時点でも小用中の長谷部であった。成長期の子供なら、多尿も致しかたないところである。

その後はつきはMAHO堂で、「そんな別に私矢田くんが久し振りに会えるから嬉しいとかもしかしたら私も会っちゃったりしてキャーどうしましょうとか——」と、浮かれ切っていた。

父親に挨拶したい程、彼への想いは募っているようだ。

「おじゃ魔女BAN2CDくらぶその5 キャラクター・ミニアルバムシリーズ(1)〜春風どれみ〜」(2000年8月22日発売)

……発売日は夏休みだが、内容は学級日誌を書いているので学期中の話。しかし、いつでも挿入できる話なので、便宜上このタイミングで取り上げる。

○どれみの学級日誌「どれみの処方箋」

MAHO堂、というよりどれみ謹製の妙なお菓子を売りつけられるクラスメートの中に、矢田と長谷部の姿が。

長谷部「なあ矢田」

矢田「何だよ？」

長谷部「実はさあ——」

長谷部が矢田に何を告白しようとしたか、それは永遠の謎である。

とはいえ、この短期間で打ち明け話を出るほど、長谷部が矢田と打ち解けたということだけは言える。一学期の話ならば、だが。

どれみ「ストロップ!!」

矢田、長谷部『は？』

どれみ「ダメだよ、ケンカなんかしちゃ！ 矢田くんも、長谷部くんも、はっきり言って、カルシウムが猛烈に足りないのさ！」

矢田「カルシウム？」

長谷部「何言ってんだよ、俺たち別にケンカなんか——」

が、少なくとも最後の花火のシーンでは、どれみたちは5人で固まっていたので、矢田とはつきは一緒に居なかったし顔も合わせなかった。そして残念なことに、今回が山内寺話の最終回となったため、雪辱の機会を与えられることなく、夏の矢田は最後までヘタレのまま終わってしまったのである。哀れな。

もっつと！33話「天下無敵!?おジャ魔な助太刀」

(2001年9月23日放送)

○Aパート

無心岡島流道場が受けた、道場破りの挑戦状。5人での団体戦だが、門下生が岡島小太郎一人しかいないので、どれみたちが協力することに。

美空小でスカウトしたのは、何故か矢田と長谷部だった。

矢田、長谷部『剣道?』

どれみ「岡島くんを助けると思って、ね?」

岡島「お願いします!」

矢田「俺はケンカに武器は持たねえ主義なんだ」

はつき「ケンカじゃなくて剣道の試合よ?」

矢田「どっちでも同じだ、気が乗らねえな」

長谷部「ハハ、とか言っつて、ホントは負けるのが怖いんじゃないか?」

矢田「何だ?!」

長谷部「やるか!」

はつき「もおー、2人共やめて!」

胸倉をつかみ合う両者に、眼鏡を光らせ割って入るはつき。今度はケンカの現場において、身体を張ってを止めるまでに成長した。

矢田、長谷部『ブン!』

あいこ「つたく、ケンカっ早いなあ……」

お互い逆方向に去っていく矢田と長谷部。うつむく岡島を見て、おんぶが動く。ゴミ収集所の影でお着替えし、魔法発動。矢田と長谷部の靴を踊らせる。

矢田「うわっ、何だ?!」

長谷部「わっ、あっ、どうなってるんだ!」

矢田、長谷部『うわああああ………、はあ』

無理矢理一同の元に戻らされた両者、岡島の竹刀を同時につかんだら、靴が止まった。

岡島「矢田さん、長谷部さん、そんなに竹刀を握りたいなんて! 試合に出してくれるんですね!」

矢田、長谷部『え!』

岡島「ありがとうございます! お二人が一緒なら心強いですが、百人力です!」

矢田、長谷部『そりゃまあ、俺は勝負に負けたことないからな!』

声を揃える両者。母の日でのケーキ作り対決は、引き分けだったのだろうか?

長谷部「お前剣道やったことないじゃないか!」

矢田「スポーツ万能なこの俺に任せれば問題ねえぜ!」

矢田が万能と自称するのも驚きだが、長谷部が矢田が剣道未経験だと知っているのも驚きである。

とにかく、張り合った結果二人は助太刀させられることに。

岡島「二人共、ありがとございます!」

矢田、長谷部『ああ……』

そして残り2人は、剣道に興味津々のももこと、本当にスポーツ万能なあいこが参戦することに決定した。

OBパート

道場にて練習開始。だが、遅れて現れたももこは、「皆の者、控えおろう！」と笑いながら、チョンマゲのヅラをカブって、馬に乗って現れた。

どれみ「も、ももちゃん、その馬は——」

ももこ「武士は馬で登場するのが粋なのよ?」

長谷部「そうだったけ?」

矢田「ていうか、どこからその馬連れて来たんだ?」

どれみ、はづき、あいこ、おんぷ『失礼しました!』

矢田、長谷部、岡島『はあ……?』

4人よって撤収されるももこと馬。呆れる矢田たち。

置いていて、練習開始。振りかぶった竹刀がすっぽ抜ける長谷部、その隙にあいこに胴を取られる。続いて、ももこ対矢田。

ももこ「メーン!」

矢田「真剣し——」

両手での白羽取りを失敗する矢田。あくまで武器は持たない主義らしい。というか、彼がつかもうとしたのは真剣ではなく竹刀である。

長谷部「バカバカしいやってられつかあ!」

矢田「帰らせてもらうぜ!」

竹刀を床に放り投げ去っていこうとする、癩癩持ちの2名。

だがはづきが魔法で巨大扇風機を出し、逃亡を図る両名を岡島の元へ吹き飛ばす。彼ら、とりわけ矢田に、選択権はないのである。

矢田、長谷部『うつつ……、うわああああ!』

岡島「お二人共、やっぱり戻って来てくれたんですね! ありがとうございます!」

あいこ「途中で逃げるなんて、二人共そんな根性なしやないもんなあ?」

矢田「……ま、まあな」

長谷部「当たり前だろ?」

矢田、長谷部『あはは……あははは……』

ハイテンションなももこ、時代劇の真似ごとをして駆け回ると、縁側から庭に落ちそうになる。それを助けようとした岡島は、右足をひねり、一緒に倒れ込んでしまう。心配し駆け寄る一同。ももこは無事のようにだが、岡島は。

岡島「大丈夫ですよ? ……」

矢田「お前、足痛めたんじゃないか?」

真つ先に気付く矢田。ももこが謝るも、岡島は平気な顔。型の基本を見せようにも、足がままならない岡島。だが、今頑張らなければ道場は潰れてしまう、と岡島。竹刀を振り上げる彼を止めたのは、矢田だった。

矢田「今頑張らなきゃいけないのは、俺たちのほうだろ。見本はいいからさつさと教えるよ」

長谷部「お前の足引つ張らねえように、頑張るからよ!」

あいこ、ももこ『うん!』

岡島「……皆さん」

こうして矢田は岡島の心に打たれ、短気を改めたのである。

練習に明け暮れた日はあつという間に過ぎ、そして、決戦の日。

審判に現れたのは関先生。免許を持っているらしく、毎年頼まれているらしい。相手は、顔がそっくりな5つ子、服部五人衆。

先鋒戦、矢田対五郎。

関先生「これより、岡島道場対服部道場の試合を行います。岡島道場、矢田！」
矢田「はい」

先鋒戦開始。掛け声もそこそこながら、防戦一方の矢田。
と、彼の頭に青筋が立った。

矢田「こんなもん……邪魔だ！」

竹刀を投げ捨てる矢田。勝利を確信する五郎。
が、左手で竹刀を受け止めた矢田は。

矢田「おおおりやああー！」

右拳一発、相手を殴り倒す。道着ごと。

矢田「フツ、俺に勝とうなんて百年早えんだよ」

どれみ「す、凄い、一撃で……」

おんぶ「でもあれって——」

関先生「白、服部道場の勝ち！」

矢田「何でだよ!？」

関先生「剣道では相手の竹刀を握ったり、パンチは反則なんだ」

矢田「え? ……っ」

短気を改めたのは気のせいだったらしい。

悔しがる矢田。最後まで武器を好まない、徒手空拳の主義は崩せなかったよ
うだ。小手付けてるけど。

どれみ「やっぱり」

はづき「まさるくん、あなたって人は……」

二対二で迎えた大将戦、岡島対一郎。

たとえ腕が折れていたとしても、剣士である限り戦うと岡島。足の怪我を跳
ね除け、苦戦を制し面一本。

笑顔で勝利を祝福する一同。力尽き倒れようとする岡島を、長谷部が支えた。

長谷部「やったな！」

矢田「お前根性あるな」

岡島「皆さんのおかげです、皆さんが応援してくれたから」

こうして矢田は、新たな友の強さを認めたのである。自分がない強さを。

もっつと! 36話「はづきのおいしいアイデア」

(2001年10月14日放送)

O.Aパート

ハナ、そしてぼっふの友達やさやか好き嫌いに頭を抱えるどれみたちは
づきは、幼い頃の経験からパーティー作戦を思いつく。

このアイデアは、小さい時キュウリが食べられなかったはづきのために、ば
あやが考えたものから来ていた。はづきのお誕生日会で、キュウリも入った可
愛いお寿司を作り、友達と一緒に楽しく食べられるようにしてくれたのだ。

さてこの誕生日会に出席していたのは、小泉まりな、岡田ななこ、木村たか
お。そして、合同お食事会には(画面上で)顔を見せなかった矢田であった。

矢田「いただきまーす」

美味しそうにお寿司を頬張る、幼い矢田の姿がはつきり写っているのだ。幼
い頃から大人たちに誤解されていたらしい矢田だが、誕生日会に呼ばれる以上、
藤原家から誤解を受けていることはなかったようだ。

そしてこれで、まりなと木村の付き合ひも、はづき&矢田と然程変わらない、すなわち同じ幼馴染みだと明らかになった。#5話で二人がそれぞれはづきと矢田に相談したのも、双方が似た境遇だったからとも考えられるのである。

ナ・イ・シヨ11話「バレンタインデーははづきのないしょ」

○Aパート

5年生の冬。2月14日、家族揃ってお誕生日パーティーをすることになったはづき。しかし、バレンタインデーに何やら思うものがある様子。

一方、矢田の自宅外観が初登場。洋式で、広い庭やテラスもあり、二階もありそう。母子ふたりで暮らすには大きい家だが。

また矢田の部屋はドツカ〜ン！9話で初登場しているが、今話では新しく机の様子が描かれている。洋風の机の上には、旧式の大きなモニターの前にキーボードが置かれていた。父のお下がりのデスクトップパソコンかもしれないが、周辺にはHDDが見当たらない。

頬杖をつき、漫画雑誌をめくると「バレンタイン特別よみきり バレンタインデーはつちり大作戦」の文字が。

矢田「2月14日か……」

一方MAHO堂にて、バレンタインセールルの打ち合わせ。乙女心に付け込んだ商売のためだけでなく、恋する女の子を応援するために「勇気の出るチョコ」を作ろうと決意するどれみたち。しかし、はづきの表情は晴れない。

チョコ作りを開始するも、あいこはお父ちゃんにあげるだけ、おんぷは毎年誰にもあげていない。どれみも、ももこも、今は特に好きな人はいないという。つまり、この頃のどれみは暁のことをすっかり忘れており、ももこも岡島を微塵も意識していなかったことになる。ああ涙。

どれみ「はづきちゃんは、毎年あげてるんだよね、矢田くん」

はづき「あげてないわ」
どれみ「え!? あげてないの? あたしやてつきりあげてるもんだ……と、思
って……おり——」

ハナをお守りしに行くのと退出するはづき。おんぷが聞いたところでは、去年のバレンタインに矢田はチョコを誰からも受け取らなかった、と。だが、どれみは幼稚園の時はづきが矢田にチョコあげてるの見たことがあるという。帰路につくはづき、店から出てきた矢田と鉢合わせ。

はづき「あ……まさるくん?」

矢田「ん、ああ」

はづき「おつかい?」

矢田「ああ、今帰りか?」

はづき「うん」

しばし無言で歩くふたり。

矢田「……ちよっと遅くないか」

はづき「あ……もうすぐ、バレンタインだから、チョコレートのお菓子作りで忙しくて」

矢田「ああ……」

再び、双方無言。

矢田「じゃあな」

はづき「あ……」

か細くため息をつくはづき。

ウキウキバレンタインセール開始、「MAHO堂特製勇気の出るチョコレート」販売で大盛況。

「みんな、勇気を出して告白出来ますように」と願いを込めるはづき。チョコを渡せるか不安がるお客の女の子の手を握り、自分の勇気を分け励ますはづき。

矢田「……勇気の出るチョコ」

その頃、MAHO堂の前を通りがかる矢田は、セールの垂れ幕を見上げた。

どれみ「重いな……よいしょっと」

矢田「おい春風」

どれみ「うわああびつくり、誰？」

矢田「俺だよ」

どれみ「あれ、矢田くん？」

矢田「頼みがあんだけど」

裏口から現れる矢田。もはや常連の態度である。

どれみ「え、勇気の出るチョコを？」

矢田「ああ、一つくれ」

どれみ「何で男の矢田くんが、バレンタインのチョコ買うの？ 何で何で？ 何で？」

矢田「いや、その、あの……いいだろどうだって、一つ売ってくれよ」

どれみ「あい」

矢田「このこと誰にも言うなよ？ 藤原たちにもナイショだぞ」

と、以上のやり取りを、即あいこたちにバラしてしまうどれみ。

ももこ「でも何で？ まさか矢田くん、好きな男の子が——」

あいこ「んなわけないやろ!？」

ももこ「ないかね……」

どれみ「矢田くんも変だけど、はづきちちゃんも何か変なんだよねえ」
おんぶ「今までのバレンタインで、何かあったのかしら」

営業終了。はづき帰宅後、即再集合し。即マジカルステージ『はづきちちゃんと矢田くんの、2月14日を教えて!』を発動させる。

と、0から10の、はづきの年齢に準じた扉が現れる。0を開けると、はづきが生まれた日の光景が見える。はづきだけで、矢田の姿がないということとは、矢田の生まれたのは2月14日以降とも考えられるが、やや苦しいか。

6歳の誕生日の時はチョコを渡していた、とどれみ。では7歳、小学校1年の時はどうか確かめようと扉を開けるあいこ。

はづき「まさるくん!」

矢田「ん?」

公園の花壇で座り何かを漁っている矢田。はづきの声に、手のものを慌てて後ろに隠す。

はづき「まさるくん……」

矢田「ああ」

はづき「あ、あのね……チョコレート」

矢田「ありがと。誕生日おめでとう」

はづき「ありがと。嬉しい!」

と、摘んだ花の束を差し出した矢田も、素直な笑顔を見せる。

あいこ「二人とも可愛い!」

どれみ「ラブラブアッチッチだ!」

おんぶ「いいなあ!」

ももこ「二人にとってバレンタインデイは、プレゼント交換の日なんだね!」

と、出歯亀4名の羨ましがる図。鼻息の荒いどれみに、目がぐるぐるしたももこも、何故か口元がネコクチである。

が、おんぶはまだ続きがあることに気付く。

矢田「美味しそうだな」

はづき「ママと作ったの。食べて？」

女の子「あ、あそこだ！ 矢田くん！」

……はづきが卵を割れるようになったのは5年になってからなので、チョコは経験あったのかと疑問が残るが。

そんな二人きりの空間に、容赦なく謎の女の子が割り込んでくる。

女の子「はい、バレンタインのチョコレート。良かった矢田くんに渡せて！」

矢田「……………あ」

はづき「……………ん」

見つめ合う二人。

矢田「ごめん、いらない」

女の子「何で？ はづきちゃんのチョコはもらったくせに！」

矢田「だって藤原は……………今日、誕生日だし」

その言葉に瞳を震わせるはづき。

女の子「何だ、誕生日だからもらったってあげてたんだ」

矢田「あ……………」

女の子「私のももらってよ！」

矢田「いらない……」

女の子「何で!? チョコ好きでしょ？」

矢田「チョコなんか大っ嫌いだ」

チョコを押し付けてくる女の子と払いのけてしまい、その勢いではづきのチョコも落としてしまう。

花を取り落とし、涙を流すはづき。そのまま走って去ってしまふ。

女の子「もう矢田くんになんかあげない。べーだっ」

呆然と立ち尽くす矢田。

原因を確信する一同。では2年生の時は？

矢田「俺、バレンタイン嫌いなんだ」

チョコを渡そうとする女子を、一言で追い払う矢田。それを見つめるはづきの両手には、おそらく何も持たれていない。2年から、渡さなくなったのだ。なお細かい部分だが、1, 2年のはづきの衣装は、5年以降の私服を小さくしたものになっている。この数カ月後に着るであろう、3, 4年次の私服の設定は何処に行ったのか？

一方はづき、小1の頃の苦い記憶の残る公園を見つめる。

矢田「あん……………」

そして矢田は、自室で「勇気のでるチョコレート」を頼張る。

OBパート

超高級物のブランドチョコ1個をハトの餌のようにバラ巻く玉木。玉砕した小竹は、4年の女子から「ずっとあなたが好きでした、長谷部くん」の手紙つきチョコを、間違えて机に放り込まれていた。一方、独り上の空の矢田。

廊下ではづきに借りた教科書を返すどれみ、その後ろでも木根ひろこ、小泉まりな、万田ようこ、岡田なこと工藤むつみが通り過ぎていく。輝いている女子たちの姿に、どれみも満悦。

外では、はづきが勇気を分けた女の子がチョコを贈るのに成功していた。それを見届けたはづき、そしてどれみは。

どれみ「今度ははづきちゃんの番だね」
はづき「え？」

顔を赤くするはづき。どれみははづきの肩に手を置き、

どれみ「勇気を出して、矢田くんにチョコレートあげたら？ 昔みたいに」
はづき「え……、……あげてもしょうがないわ。まさるくんはバレンタイン嫌いだし、私があげたってきつと受け取ってもらえないだろうし」
どれみ「はづきちゃん、ずつとつむいてるよ？ 折角のバレンタインなのに。そんな風に悩んでる人のために作ったんでしょ、勇気の出るチョコレート」
はづき「！」
どれみ「渡してすつきりしちやおうよ、ね！」

二人の付き合いの長さを誰よりも理解しているどれみは、ただ茶化すだけでなく、彼女たちの後押しをもしていたのだ。

夕方MAHO堂にて。勇気の出るチョコは完売していた。
そのままはづき誕生日会開始、こっそり作っていたMAHO堂特製オリジナル手作りケーキを贈る4人に、礼を言うはづき。と、いきなり「あれえー!? こんなところにチョコが、MAHO堂特製勇気の出るチョコレットがあー！」と大仰に叫び、チョコをかざすも。以下、マジョリカを加えた一回のわざとらしいコント炸裂、誰か買ってくれないかと困り果てる……

はづき（勇気の出るチョコなら……渡せるかもって思ったじゃない）
はづき「そのチョコ、私を買う！」

4人の応援を背に受け、チョコを抱え出発するはづき。

矢田宅、美空小にもいない矢田。はづきがたどり着いたのは、あの公園。

はづき「今年も渡せないのかな……」

矢田「藤原」
はづき「！ まさるくん」

そこに現れる矢田。後ろ手には花束を隠していた。

矢田「MAHO堂に行ったんだけど、閉まってた」
はづき「あ、うん……チョコが完売したから、今日は早く終わって」
矢田「そっか——」

しばしの沈黙の後、同時に手のものを差し出す二人。

はづき、矢田「これ！」
はづき「……これは？」

矢田「だから……誕生日のプレゼント。それは？」
はづき「バレンタインの……チョコ。1年生の時、チョコ落としちゃったから、ずつと新しいの渡さなきゃって。チョコ嫌いかもしれないけど……」

矢田「チョコは好きだ」
はづき「え？」

矢田「バレンタインが嫌いなのは、1年の時藤原を傷付けたからだ。サンキユ」
はづき「！ ……ありがとう」

矢田「帰るか」
はづき「うん」

帰路につく二人。

矢田「MAHO堂のチョコのおかげかも」
はづき「え？」

矢田「勇気の出るチョコ、春風に頼んで分けてもらったんだ。あれ食ったら、何か勇気出た」

はづき「あれは、女の子が勇気を出して告白出来るようになって意味よ？」

矢田「え!? 食ったら誰でも勇気が出るんじゃないのか?」

はづき「……うん」

矢田「あ、笑うなよ! ちょっと間違えたただけだろ」

はづき「うん、そうなのかも」

矢田「?」

はづき「女の子でも男の子でも、勇気が出るチョコなのかもね」

矢田「うん……誕生日、おめでとう」

5年生最後、全シリーズ最後の矢田の台詞は、TVシリーズでは新番組開始
時期的に取り上げられなかった、はづきの誕生日を祝う言葉で締められた。

はづき「ありがとう」

夕陽の中帰っていく二人。互いに自分の考えを伝えられずにいた二人の距離
は、こうして縮まったはず、だったが――

○エンディング

ももこ登場後、初めて「矢田まさる」の名がクレジットに明記。「飛鳥ももこ」
の下に併記される。

4 小学6年生編

ドッカーン! 6話「学級文庫の迷コンビ!」
(2002年3月10日放送)

○アバンタイトル

どれみ「うえ〜い」

ももこ「うえ〜い」

小竹「うえ〜い」

矢田「うえ〜い」

萩原「うえ〜い」

玉木「うえ〜い」

花「うえ〜い」

7人立て続けに、両唇を両手で引つ張り声を出す。

どれみ、ももこ、小竹、矢田、萩原、玉木、花『がっきゅ〜うんこ』
けいこ「学級文庫!」

……これが、最上級生になった矢田まさるの、4年目最初の台詞である。

周囲から誤解される不器用な不良の姿は、もうどこにもない。ていうかむしろ、
玉木が参加したことのほうが意外である。

○Aパート

山本けいこと共に、1組の学級文庫係となった花。彼女なりに係の仕事をし
ようと奮闘する。

花「その本とーっても面白かったよ! ピラミッドからミイラが、グア
オオって出てきてね。悪者を、ボコボコボコって、やつつけちゃうんだ!」
矢田「へー、面白そう。借りてみようかな」

ホラーでも、本で読むなら平気なようである。
本の面白さを伝え、どんどん色々な本を貸していく花。

だが係の仕事は大変で、玉木や萩原たくろう、矢田もまた本を返しに来てない
と几帳面に悩むけいこ。

矢田「あ……あの本なら小竹に貸した」

けいこ「勝手に他の人に貸すなんて、又貸しは禁止って言っルールよ？」

矢田「え、そうなんだ」

けいこ「そうなんだじゃないわよ……」

屋上で小竹、萩原と話す矢田。

矢田「日本の奴、お前に学級文庫又貸したってすっげえ怒ってさ、参っちゃったぜ」

萩原「俺は表紙破ったって怒られた」

小竹「巻機山のほうがよっぽどいいよ。うるさくないし、面白い本教えてくれるし」

玉木「ホオント、どうにかありませんかしら、あの融通のきかない『がっきゅー、うんごがかり』」

小竹、矢田、萩原『うわあ……』

児童会長様のご尊顔を前に、ドン引きの男子3名。

別に陰口のもりはないのだから、結局この会話はけいこには聞かれてしまっている。悪ガキとして級友と語る姿のみで、今話の矢田の出番は終わる。

ドッカーン！9話「はづきのキラキラ屋」
(2002年3月31日放送)

○アバンタイトル

走る足がもつれて転び、堪え切れず泣きじやくるはづき。矢田、無愛想に無言で手を差し伸べるが、はづきは首を振って泣くばかり。矢田は何も言わず、背中を差し出した。

はづき「まさるくん、ありがとう……」

無印17話、矢田初登場回で語られた、幼稚園の頃のエピソードが鮮明な画面で再映像化。これまでの関連エピソードを総括する、本話に相応しい前振りである。

○Aパート

校庭で突然苦しみ出すしおり。どれみたち6人に続き、サッカーをしていた小竹と矢田も駆け付ける。

関先生に知らせようとするとする小竹をよそに、無言で進み出た矢田、しおりの肩をつかみ。横抱き、通称お姫様だっこする。

矢田「保健室に運んだほうが早え！」

しおりを運搬する矢田。心配する一同、しかしはづきだけは呆然としていた。

翌日、登校中。どれみたちがしおりを心配する中、花だけは能天気。

花「でもさ、昨日の矢田くん、カッコ良かったよねえー。まるで、おとぎ話の王子様とお姫様みたいだったよね！」

矢田と同じようにどれみを抱える花、しかし腕力が足りずどれみを落としてしまう。結構力の要る抱き方なのである。

はづき「矢田くん、ああ見えても小さい時から優しいところあるし」

無印以来の「矢田くん」という呼称。動揺が見て取れるが、まだ誰もそのことには気づいていない。

一方「幼馴染み」の意味を知らない花に、「小さい時からお友達だった」と説明するどれみだが、おんぶは二人の場合「ちよつと違つ」と補足。あれだよね、あれと言ひ募る一同に、どどん顔が紅潮していくはづき、遂に爆発し。

はづき「――な、何？ 私たちはただの友達よっ!」

どれみ、あいこ、おんぶ、ももこ『……うふくん?』

花「?」

はづき「……、もうこの話はおしまいにしましょう?」

だが浮かれていられるのはこの時だけ。しおりは当分入院することになった。

しおりのために、授業のノートを書し持つていくはづき。一行が312号室に着くと、ドアから男女の笑い声が。しおりの話し相手は――

矢田「――バツカじゃねえの、違えよ」

花「しっおりちゃん! ちいっす! あれ? 矢田くん!」

花が扉を開けると、そこにはしおりに付き添う矢田の姿が。

はづき(まさるくん……)

矢田(……藤原)

一瞬、見つめ合う両者。

しおり「わあ、みんな来てくれたんだ!」

どれみ「矢田くんも来てんだ」

矢田「ああ、こいつの練習で近くまで来たから。じゃあ俺、帰るわ」

と、トランペットをかざす矢田。あの河原以外でも練習していたのか。

しおり「もう帰っちゃうの?」

矢田「ああ、またな」

しおり「ありがとう」

矢田「おう」

はづきとすれ違っても、無言で出ていく矢田。うつむき、ノートを握りしめるはづき。そのまま上の空でいたが、しおりの「勉強もきつと遅れちゃうわね」の言葉で我に返り、ノートを渡す。

素直に礼を言うしおりだが、はづきは上手く笑えずにいた。

一方、病院の外に出た矢田。看板のライトが点灯、一瞬病室を見上げ、去っていく。

夜。はづき、月明かりのみに照らされる自室の机で、鳩笛を手に取り、過去を反芻する。

幼稚園の頃、おぶつて送ってもらったこと。鳩笛をもらったこと――そこでしおりと談笑する矢田の姿がよぎり、口をつけようとしていた鳩笛を離し、一ため息。

一方の矢田も、初登場の自室でベットに座り、トランペットを磨く。ふと眼をやった先には、二枚の楽譜が。

2組では、しおり宛ての元気の出る手紙を作っていた。

夕方、ノートで勉強するしおりの元へ、再び矢田が。

矢田「うーっす」

しおり「矢田くん」

矢田「勉強してたのか?」

しおり「うん、はづきちゃんがノート取ってくれたから」

矢 田 「あいつお節介だからなあ」

しおり 「そんなことないよ、凄く嬉しかったんだから。でも、わからないところがあるんだ」

矢 田 「んー……って、俺にわかるわけ——あれ？ それ、今日習ったぞ。確かこのページに解き方が……」

しおり 「あ、ホントだ！ ありがとう……」

とうとう矢田が人にものを教えるまでになった。5話の読書といい、彼もその見識をどんどん違う方向に伸ばしている。

が、鉛筆を止め、うつむくしおり。

矢 田 「どうしたんだよ」

しおり 「学校休んでる間に、どんどんみんなに置いてかれちゃう気がして」

矢 田 「え？」

しおり 「このままずーっと休んでたら、みんな、私の顔忘れちゃうわ。私が見たお母さんの顔、だんだん思い出せなくなったみたい……」

＃15話の記憶がフラッシュバックする。

矢 田 「中山……でも、だからって、お母さんのこと忘れたわけじゃないだろ!?」

しおり 「!」

矢 田 「俺だって、ホントの母さんのこと、たまには思い出すもん」

しおり 「矢田くん……」

矢 田 「誰もお前のこと忘れたりしねえよ。それに、学校の奴らだって、そのうち病院に押し掛けてくるぜ？」

しおり 「そうかな」

矢 田 「あのなあ、そんなに心配なら早く元気になれよ」

しおり 「そりゃそうしたいけど……」

矢 田 「あ……なあ、中山」

しおり 「？」

矢 田 「俺今、ペットで新しい曲練習してるんだ。俺がその曲吹けるようになるのと、お前が元気になるのとどっちが早いかな、競争しようぜ？」

しおり 「……うん！」

と、ノック音が。

西沢先生 「こんにちはは」

はづき、みんと、佐川、太田 『こんにちは!』

しおり 「先生、皆！」

矢 田 「……ほおらな？」

しおり 「うん！」

西沢先生 「あーら、二人で内緒話？」

佐川、太田 『内緒話？』

和田みんと 「……？」

やはり浮かない表情のはづき、最後に病室に入りドアを閉める。

矢 田 「別に？ じゃ、俺帰るわ」

しおり 「毎日ありがとう！」

矢 田 「ああ」

佐川、太田 『毎日？』

無言で、はづきの横を通り過ぎていく矢田。

はづき (まさるくん、毎日来てるんだ……)

一方、エレベーター待ちのどれみたち。ドアが開くと、そこには矢田が。

矢 田 「! おう。西沢先生たちも来てんぞ？」

どれみ 「うん……。毎日来てんのかな？」

夕陽の中帰宅するどれみたち。やはり落ち着かないはづきだが、花とおんぶの提案でしおりに髪飾りを作って持つていこうと決め、一同揃ってやる気を出す。だがその時、トランペットの音が響く。曲は「春が来た」、いつもと違う。

はづき「これって……」

いつもとは違う橋から、いつもとは違う河原を見下ろす一同。

どれみ「でも、何で急に新しい曲なのかな？」

花「ハナちゃんたちと一緒に、しおりちゃんへのプレゼントなんじゃない？」
はづき「！」

胸が張り裂けそうなはづき……

OBパート

朝。校舎で新SOSトリオの音が響く。

新SOSトリオ『ラブラブったらラブラブ！ 矢田と中山ラブラブ！』

ナ～イシヨ話でラブラブ！ ラブラブったらラブラブ！』

矢田「うぜんだよおめえら」
佐川「ほおらな」
太田「うん！」

佐藤「何話してたの矢田きゅん？」

矢田「……おめえら暇だろ」
佐川「否定しないとは怪しい」
太田「苦しい」

佐藤「ビタミンC」

見かねて飛び出すはづき。

はづき「酷いわ！ 矢田くんはしおりちゃんのこと心配して毎日お見舞いに行つてるのに」

トヨケン『おーっと、ライバル登場か？』
はづき「え？」

小倉「矢田くん、あたしとしおりちゃんのどっちを選ぶのお？」
杉山「うーん、どっちにしようかなあ」

小倉「——つてはつきりせんかい！」

激しくツッコむも、ももこですら笑わない。人をコケにして笑いを取ろうとする小倉けんじ、彼が懂れたお笑い芸人とは「煽り屋」だったのだろうか？

無印時代、奥山なおみを泣かせてから。そして#15話のヤキモチ発言から全く成長がない旧SOSトリオ3人と、それに引きずられる2人。4年間も登場させておいて、彼らの反省と成長が描かれなかったことに、同情を禁じ得ない。たまらず走り去ってしまうはづき。あんたら最悪やなと言ひ捨てるあいこ。

矢田（……藤原）

だが、矢田ははづきの後を追わない。

MAHO堂でも調子のおかしいはづき、今晚も暗い部屋で夜空を見上げる。鳩笛もノートも机に置いたまま。

矢田もまた自室で窓に張りつく。トランペットも楽譜もベッドに置いたまま。

しおりへのプレゼントのカチューシャが完成し、届けに行こうとするも。はづきは、今日踊りのお稽古があるからと、ノートを預けて帰ってしまう。

矢田に会うのが気まずいのは、とおんぶ。複雑な事情を理解できない花。

はづきは独り、矢田が「春が来た」を吹いていた河原の橋でたたずむ。

はづき「私、何で皆と行かなかったんだろう？」

寂しい時や、悲しい時、まさるくんがいつもそばにいてくれたから、私——」

はづきの幼い頃の大切な思い出と、今のしおりの姿が重なっていく。
ようやく、彼女は思い至った。

はづき「しおりちゃんも寂しかったんだ……だから誰かにそばにいて欲しくて……まさるくん……それがわかって毎日しおりちゃんのお見舞いに……」

全てを理解したはづき、左拳で頭を小突き。

はづき「優しいな……、私も行かなくちゃ！」

が——事態は急変した。

病室の前で、呆然と立ち尽くす矢田。

どれみたちの前を通り過ぎ、しおりが集中治療室に運ばれていく。衝撃が走る中、矢田がどこかに走り出す。

どれみ「矢田くん！」

矢田「俺、約束したんだ……中山が元気になると、俺が新しい曲吹けると、どっちが早いかって。」

まだ、俺曲マスターしてないから。まだ、中山との競争、終わってないから」

角ではづきと鉢合わせする矢田。しばし見つめ合い、屋上へ向かう。

はづき「あの曲……そんなわけがあったんだ……」

女子トイレでお着替えしたどれみ、魔法でしおりの右手に髪飾りを届ける。6人全員で、途中でエールを送り続ける。

と。屋上の給水タンクの上で、矢田が奏でる「春が来た」が、辺りに響く。

意識を取り戻したしおりの左手の髪飾りを手に取り、そっと付けるどれみ。「私たち皆、しおりちゃんのこと待ってるから」と伝えるはづき。

なおも吹き続ける矢田。知らせに行こうとするどれみを止めるおんぶ、その
役目は——

はづき「まさるくん？」

矢田「………そっか」

屋上に現れたはづきを見て、全てを悟る矢田。

はづき「まさるくん………あのね？」

何も言わず、トランペットを吹き続ける矢田。穏やかな表情のはづき。

あいこ「キラキラ星や」

どれみ「やっぱり、ちっちゃい時から練習してた、あの曲のほうが、矢田くんには似合ってるね」

花「ちっちゃい時から？ ……あ、わかった！ キラキラ星ははづきの曲なんだ！」

どれみ「そっか………そうかもしれないね」

どんな言葉よりも、何よりも雄弁に物語り、何よりも伝わる音。

5年のバレンタインデイで、互いの思いを伝え合った矢田は、その優しさをしおりにも分けるようになった。もう彼は、1年のバレンタインの時のように、はづき以外を邪険にするようなことをしない。

そしてはづきもまた、そんな彼の思いを受け止めた。想い人の真意を知った彼女は、もう迷うことはないだろう。

こうして二人は、より互いを理解し合うことで、限りなく近づくことができたのである。

ドツカーン！10話「修学旅行!! 班長はツライよ」
(2002年4月7日放送)

○アバンタイトル

花 「ジャーン！ 修学旅行の班長さんはハナちゃんに決まりね？」

どれみ、ももこ、矢田、長谷部、岡島『異議なし』

笑顔で承諾するどれみ、ももこ、岡島。選択権のない矢田、長谷部。

花 「それじゃあ皆、ハナちゃんに付いといで！」

どれみ、ももこ、矢田、長谷部、岡島『おー！』

矢田、長谷部の表情は晴れないが、だからどうなるものでもない。

○Aパート

修学旅行二週間前。どれみ、ももこ、花の班に岡島が参加を希望し。

悲鳴を上げる矢田、長谷部の服を引っ張り「男子を捕まえてきた」花。

矢田「離せてー！」

長谷部「何すんだよ、ったく！」

矢田、長谷部『うっ！』

花 「ハナちゃんと一緒の班になるの、嫌？」

泣き落としされる哀れな被害者2名。

長谷部「べ、別に嫌ってわけじゃ」

矢田「他の班に入るあてもないし、なあ？」

花 「じゃあ決まりね！」

こうして6人の定員が埋まり、小竹は玉砕した。

どれみたち5班の班長は、花が立候補。どれみ、ももこが止めようとすも、

矢田「いいんじゃねえの？ 巻機山で」

ももこ「でも、班長さんってちよつと大変だよね？」

長谷部「本人がやる気になってんだから、いいじゃん」

岡島も賛成し、花班長が誕生した。

だが問題は頻出し、長谷部もようやく事の重大さに気付き始める。

花 「あとねー、自由行動の時、どこを回るかを決めて、計画表を先生に提出するんだって」

矢田「計画表？ 自由行動なのに？」

関先生「自由行動って言っても、班行動だからね。あらかじめ計画を立てておかないと。時間もそんないし、皆の行きたいところのほとんどは回れないよ？」

長谷部「ったくめんどくせえなあ」

花 「皆、どこへ行きたい？ 班長さんのハナちゃんがバッチリ計画立てるから大丈夫！」

岡島「あの、私は映画村に行ってみたいんですが」

長谷部「俺は、京都タワーに登りてえなあ」

矢田「何とかと煙は高い所へ登りたがるんだなあ」

つい前話で、病院の一番高いところでトランペットを吹いていた男の言う台詞ではない。

長谷部「……んだとお!?」

矢田「やんのか？」

岡島「まあまあまあ！」

相変わらず一触即発の二人を止める岡島。

そんな中花は、班全員の行きたい場所を全部回ってあげたいと無理な計画を立てるが、旅行前々日になっても計画はまとまらない。

その努力を認めた関先生に諭され、ようやく班長としてしっかり出した花。直接対面して話をつけ計画表を完成させ、さらには夜更かししてバッグのネームタグまで作ったせいで、前日に風邪で倒れてしまう。

花 「お揃いだよ……これ付けて、皆と旅行に行くんだ」

岡島 「巻機山さん……」

長谷部 「おい、班長がいないと困るんだからな」

矢田 「明日絶対来いよ、待ってるぜ」

修学旅行初日。どれみたちやマジョリカたちの看病で、全快したハナが現れる。はづきたちに祝福される花。

くるつとターンしたら、鞆が長谷部の背中に激突。元気になり過ぎたんじゃ？とからかう長谷部。と、花が男子勢の鞆に付いたネームタグに気付く。

花 「ちいっす。……おおっ、皆ちゃんと付けてるね！」

岡島 「勿論です！」

矢田 「ま、他に付けるもんもなかったし」

一方、玉木は急に熱を出し来られなくなった。まあ次話、現地で合流したのだが。

岡島 「張り切ってたのに、お気の毒に……」

矢田 「張り切り過ぎたんじゃねえの？」

そして遅刻してきたどれみが最後に合流し、旅行出発。

……なお、張り切つてどれみたち、主にもこのいる班に参加希望したであろう岡島の、修学旅行編での台詞はこれで終わる。

つまり、花がこれだけ頑張つて計画した班行動を実際に取る彼女たちの姿は、一切取り上げられなかったことになる。少々、いや相当残念ではある。

ドッカーン！11話「奈良！運命の再会」

(2002年4月14日放送)

OBパート

奈良でFLAT4の暁、フジオ、レオン、トオルと再会する一行。福井の武生北小に留学した彼らも、修学旅行に来たらしい。暁との運命の出会いに感激するどれみに対し、はづき、あいこ、おんぶは不満顔。

1年振りにアプローチされ、「二段ときれいになったね」と言うフジオに心底迷惑そうなはづき、だが彼はなおも食い下がり。

フジオ 「はづきちゃん！ 再会を祝して、僕の想いを君に捧げるよ！ このトランペットに込めて！」

はづき 「はああ？」

即座に睨みつける矢田。2年振りのフジオとの再会である。

クラスメートの注目を浴びる中、演奏を開始するフジオ。だがその曲目に、一回は揃つてコケた。

あいこ 『チューリップ』はないやろ……」

おんぶ 「でも矢田くんより上手だったりして」

前々話のあいこに続き、おんぶも矢田の腕前に厳しい評価。矢田の腕は上達が相当遅いらしい。そして絶句するはづきをよそに、矢田は姿を消す。

はづき 「あ、まさるくん……」

灯籠を囲む小さな石柱に登って、キラキラ星を吹く矢田。

トランペット対決が一同の耳にダメージを与える中、フジオは肺活量の差でダウン。前々話を乗り越えた二人の仲に、フジオに割り込める余地はないのだ。

一同に囲まれ、勝利を称えられる矢田。

あいこ「矢田くんやるやんか」

おんぷ「はづきちゃんのために吹いたんだ」

はづき「お、おんぷちゃん！」

矢田「別に、トランペット吹きたかったから吹いただけ」

おんぷの言葉に真つ赤になるはづき、矢田。だが。

花「つていうより、トランペットを修学旅行に持ってくる？ 普通」

花にツッコまれては終わりである。盛大にコケる矢田。

矢田「ま、巻機山！」

花「えへ♪」

一転して笑われる矢田。長谷部はその肩をつかみ、何も言わず笑って立たせてやった。こんな時は長谷部とて、矢田をおちよくったりはしないのだ。

小竹「矢田、よくやったぜ！ それでこそ美空小の男子だぜ！

矢田、長谷部、これからも美空小の女子たちは俺たちで守ろうぜ！」

矢田「お前一人でやれば？」

長谷部「俺も遠慮しとく」

が、一人睨みに対抗意識を燃やす小竹は、空回りするばかりであった。

矢田他に観戦される中、あいこがレオンを卓球勝負で破り、FLAT4の誘いを撃退。

無事6人でお土産を買いに行く一同だが、どれみは浮かない顔。

どれみ「何かさ、皆さ、いつの間にかいい感じになってるよねー」

あいこ「ぼやかへんぼやかへん」

そんなどれみの目に映るは、木村たかおと小泉まりな、山内信秋と佐藤なつみ、長谷部たけしと工藤むつみ、林野まさると長門かよこ。本当にくっついてるか、ただの勘違いなのかは、想像次第であろう。そして、この二人も。

矢田「藤原」

はづき「まさるくんどうしたの？」

矢田「中山に土産買ってやりてえんだけど、何買ったらいいかわかんねえんだ。ちよっと付き合えよ」

はづき「ええ、いいけど……」

あいこ「あたしらは、気にせんといて？」

はづき「うん！」

おんぷ「しおりちゃんのためだもん。どうぞどうぞ？」

とうとうしおりを一人きりになる口実にし出した(´▽`)矢田のシーンで、修学旅行編での矢田の台詞終了。

ドツカーン！13話「むつみの引退宣言！」

(2002年4月28日放送)

Oパート

憧れのキャンディ伊藤が引退し、プロレスの相手もいなくなって、元気のない工藤むつみ。一言も喋らず教室を出ていく彼女を追いかけるとれみ、ももこ、ハナを視線で追う長谷部。が、矢田は無反応。

ならばプロレスの相手を探せばいいと、どれみ、ももこ、花は小竹に頼むも、逃げられる。というわけで、

ももこ「だったら今度はもっと強い人、君だ！」

矢田「興味ねえ」

今話の矢田の出番終了。一応むつみも同じソナチネ幼稚園出身なのだが、矢田との絡みはこの一瞬で直接話してすらいない。もしむつみが、3年の時点で中学生を3人ボコボコに出来る矢田と戦ったらどうなったか、興味は尽きない。

ドッカーン！17話「ひみつ基地を守れ！」
(2002年5月26日放送)

Oパート

下校途中、何やら大きな荷物を抱えて歩く、中田(こうじ)と中島正義を尾行するどれみ、はづき、あいこ、ももこ。

さらには矢田まで、パイプを担いで現れ、学校の裏山の奥へと進んでいく。辺りを警戒した後、破れたフェンスの向こうに進む矢田。が、草むらのどれみ一行には気づかない。

はづき「まさるくんまであんな荷物持って一体？」

矢田を見失うと、小竹も現れる。だがまたもや逃がしてしまふ。

とうとうマジカルステージまで使い、男子の秘密を暴こうとする4人。そこに通りがかるは、ほつかむりをかぶり古典的な泥棒のような格好をした花。

立ち入り禁止のはずの廃屋を、男子たちは秘密基地にしていた。メンバーは小竹、矢田、杉山、中田、小倉、中島、万田じゅんじ、そして宮前空。中島曰く「6年1組ハンサム連合」らしい。

木村の内緒話を容赦なくバラす小竹。今度の週末、小泉まりなど遊園地に行くために、親に預けたお年玉を返してもらおうと大喧嘩して家族会議になったという木村。見えないところで二人の進展は続いていたようだ。

矢田「中島」
中島「？」

矢田「お前漫画以外に持ってくるもんねえのか？」

中島「仕方ないだろ、親が捨てるってうるさいんだから」

ソファに寝転がり、小竹の話をスルーしたかと思えば、中島にツッコむ矢田。何だかんだで、居心地は良さそうだ。

そして、いつの間にか彼らの仲間に入っていたらしい花が、どれみ一行を連れて来た。無理矢理秘密基地を見学するどれみたち、中にある人力グライダー「STAY GOLD」を見て目を輝かせる。

どれみ「すごい、これ作ったの？」

宮前「うん。皆で、部品とか集めて、ちよつとずつね」

じゅんじ「何言ってるの、ほとんど宮前が組み立てたんじゃないか」

矢田「才能だよな。こんなもん、俺たちだけじゃ作れるわけねえもん」

Oパート

おんぷに加え、飛行機に詳しいようこまで参戦。本格的にグライダー製作に取り掛かる。

しかし教室での花の不用意な発言から、島倉が秘密基地を暴いてしまふ。玉木によりホームルームで問題にされるも、宮前以外の男子はグライダーが本当に飛ばせるか不安でいた模様。だがこれについての矢田のコメントはなし。

その時、休み時間中に宮前が、グライダーを飛ばしに飛び出してしまったしまった。追いかける一同。

中島「ねえねえちよつと、待ってよお？」

小竹「何やってんだよ、早くしろよ！」

中島「でもあの授業は？」

小竹、矢田、杉山『そんなこと言ってる場合か！』

流星に今回ばかりは、杉山も男らしい。

秘密基地にて、独りでもグライダーを飛ばそうとする宮前。どれみたちの制止も聞かない。

宮前「誰が何と言おうと、このグライダーは飛ばす！ 邪魔しないでくれ」
どれみ「でも……」

宮前「今しかないんだ!! ……ここで諦めたら、一生後悔する。

僕は今まで何でも中途半端で、人に自慢出来ることなんて何にもなかった。だからこそ……これだけは最後までやり遂げないといけないんだ!!」

矢田「……じゃあねえな」

宮前「あ？」

小竹「だったら、最後まで付き合っただけでやるよ！」

宮前「……みんな……」

坂の手前でグライダーを止めると、関先生に西沢先生、ゆき先生に教頭が制止する。子供たちだけで作ったものが本当に飛ばわけないと正論を述べる教頭だが、小竹は「行けええー!! 宮前えー!!」と絶叫する。

宮前「こ、小竹？」

小竹「早く！」

矢田「宮前、早く行け！」

宮前「あ……うん！」

一同がグライダーを押す間、身体を張って接近する教頭をブロックする矢田。拳は使わない、ただ押し倒すのみ。

花 「宮前くん、行くよー！」

教頭「降りなさいーい！」

矢田「おりゃあー！」

関先生の制止も聞かず、宮前は飛ぶ。「俺、行きます！」の言葉に、走りをもてしてしまう関先生。

花 「行ーけー!!」

矢田「飛べ！」

杉山、佐藤『飛べえー!』

一同の「飛べ！」の叫びを受け、宮前は――

そして全ての終わりを見届け、6年1組の生徒たちは、思い出を胸に抱え、それぞれの現実に戻って行った――

ドツカソン！26話「キャンプとカレーでアッチッチ！」
(2002年7月26日放送)

○O.P.A.T

小学校生活最後のキャンプに来た一同。メンバーは仕事で来られないおんぷを除くどれみたちに、小竹、玉木、矢田、長谷部、トヨケン、新SOSトリオ。引率は関先生に西沢先生、そしてどれみの父。

玉木「ま、普通のキャンプ場ですわね。ウチのカナダの別荘のほうが断然きれいですわ」

長谷部「じゃ何でカナダ行かないで、自由参加のキャンプに来てんだよ？」

玉木「庶民のキャンプも体験してみようと思いましたが、オーツホッホッホッホ」

矢田、長谷部『けっ!』

結局は、しよっちゅう長谷部と行動を共にする矢田である。

カレー作り開始。母の手伝いで包丁さばきの上手くなった長谷部に、感心するはづき。一方矢田は火を起こしていた。

夜のキャンプファイヤーでは、ももこと共に『世界はラブアンドピース』を合唱。トランペットと違い、キャンプ場にギターを持ち込むのはアリである。尚、この星空を素敵な彼と見る予定だったと愚痴るどれみをよそに、はづきは矢田と共に星空を見る姿が一瞬映る。

OBパート

翌日、スタンプラリー開始。

関先生「キャンプ二日目のメインイベントはスタンプラリーだ。各グループごとに地図と方位磁石を渡すから、それを使って山の中に置かれたスタンプを探すんだ」

矢田「スタンプねえ」

長谷部「宝探しっだって言うなら、まだやる気も出るけどなあ」

矢田「お前にしちゃあ、ナイスアイデア」

長谷部「うっせえタコ」

と、揃って頬杖をつき後ろを向く矢田、長谷部。息ぴったりである。が。

西沢先生「お宝はないけど、とっておきの」褒美があるのよ？」

矢田、長谷部『「褒美？」

西沢先生「スタンプを全部見つけたら、あるヒントが出てくるの。そのヒントをもとにして、星の形をしたスタンプを探してね。

見事星スタンプを見つけたら、夏休みの宿題、免除！」

関先生「え!?!」

西沢先生の爆弾発言に、衝撃の走る一同。そして矢田、長谷部の細い目に、火が付いた。

矢田「どこだー!」

長谷部「どこだあー!」

矢田「どこだコラー!」

長谷部「出て来いスタンプウー!」
はづき「で、出ては来ないと思うんですけど」
ももこ「うんうんうん」

怯える女子2人を無視し、目を光らせて草むらをあさる矢田、長谷部。

矢田「本当にこの辺りなんだろうな長谷部!」

長谷部「間違いないねえ!」

矢田「……あつた!」

長谷部「よっしゃあー!」

矢田「これで4つ目。次行くぞー!」

長谷部「おー!」

ももこ「2人共すっごい気合だね……!」

はづき「やってないのね、夏休みの宿題」

こうしてケンカ友達は、頼れる相棒に進化した。だがしおりに勉強を教える矢田の姿は、早くも遠き過去である。

ドッカーン! 42話「自分で決める! はづきの道」

(2002年11月24日放送)

OPアンタイトル

いつもの河原で、はづきのバイオリンと矢田のトランペットによる「キラキラ星」の合奏。

OBパート

進路のことで母親とモメてしまうはづき。どれみ、ばあやの助けを借りながらも、最後まで母親に自分の意見を直接伝えることが出来た。後は、進路について自分自身で結論を出すのみ。

「悩むべし」との関先生の言葉に戸惑うはづきだが、最後の最後、いつもの河原でキラキラ星を吹く矢田に出会う。

はづき「まさるくん……」

そしてこれが、6年生における最後の、そしてどれみシリーズ最後の、河原での二人の会話である(『ナ・イ・ショ』シリーズでこの河原は登場せず、トラペット自体吹くシーンがなかった)。

矢田「……なるほどな」

はづき「私、どうしていいかわからなくて」

矢田「俺が美空中へ行って言ったら、藤原はそうするのか？」

はづき「え……ううん……」

矢田「だったら何でここに来たんだ」

何故自分でもんを信じないんだ。藤原の人生は藤原のもんだ。家族や友達が、とやかく言うもんじゃやない。後悔しないためにも、お前自身が決めるもんだと、俺は思っぜ」

と。言いたいことを言い終えた矢田は、

矢田「なあ藤原、バイオリン持って来いよー！」
はづき「え？」

夕陽に照らされる中、キラキラ星を合奏する二人。これが、矢田最後のトラペットの演奏である。

はづき「まさるくんありがとう、何か心が少し軽くなった」

矢田「そっか」

そして次が、地上波TVシリーズにおける、矢田のはづきへの最後の言葉。

矢田「なあ藤原……俺とお前は、中学が違っても、今まで通り、幼馴染みで変わらないと思っぜ」

彼とは思えない饒舌さだが、彼もまた全ての自分の意見を、照れずにはつきりはづきに伝え切ったのだ。

「何でも話し、思ったことはぶつける」という師の教えは、母親に自分の意見を通せずにはづきにも通ずる。矢田もまた4年間成長し続け、遂に、はづきにそれを教えるにまで至ったのだ。

翌年、49話にて。本気でバイオリンの勉強をすると決意したはづきは、自分の進路をどれみに伝え、どれみとはづきという幼馴染みの物語も終焉を迎える。その話では、矢田は一切登場せず背景にも存在しない。彼のはづきにとっての役割は、この話で全て果たされたからである。

ドッカーン！51話「ありがとうーまた会う日まで」
(2003年1月26日放送)

OBパート

最後の最後で心折れ、卒業しみんなと離れ離れになることを拒否し、MAH O堂に立てこもるどれみ。

はづきたちの説得にも耳を貸さずにいると、1組2組の全クラスメートが集結。関先生、西沢先生、ゆき先生の姿も。一方春風一家のステータキを利用した天岩戸作戦(？)は見事にスルーされた。

次々とどれみに感謝を述べていくクラスメートたちを尻目に、最後尾でまごごしている小竹。その時、彼は最後の仕事に動いた。

矢田「おい」

小竹の肩に手を回し、長谷部ももたれかかって、言葉を促す。

長谷部「お前も何かビシツと言ってやれよ」

小竹「な、何を——」

矢田、長谷部『いいから!』

昨年出会った相棒、ケンカ友達と共に。

小竹「おいどじみ! 6年間、ずっと同じクラスだった俺のサイン帳に、何も書かずに卒業するつもりかよ?」

矢田、長谷部に持ち上げられながら、小竹はまくしたてていく。

小竹「そりゃあお前は確かに、ドジだけど! 俺は! あ…俺は——って
いうか! ここにいる皆は、お前のが大好きなんだよお!
どれみ(小竹……)」

そして、一同から拍手が沸き起こる。

小竹「……ああいや、どうもどうも、どうもありがとう皆、どうもね——あ
痛っ」

容赦なく足場を外す矢田、長谷部。肩と首をほぐしながら、

長谷部「まあこんなもんか」

矢田「ああ」

誰から称賛されるでもなく、矢田は最後まで、自らの役割を貫き続けた。無理に前に出るのではなく、縁の下で。

はづきが、誰かが本当に困った時に、手を差し伸べられるように。

そして、矢田まさるの全4年間の出番は終了した。

あとは校庭で、クラスメートたちの話の輪に背景として溶け込むのみ。全てを語り終えた彼は、作品内での役目を終えたのだ。

だがそこには、口を閉じスネて逃げ続けた子供の姿は、もうない。彼もまた数多の経験を経て、たくさんの仲間たちと共に、この日卒業したのである。

この先、我々が再び矢田まさるの姿を目にすることは、おそらくないだろう。

だが著者には、確かに見えている。

彼がこの先歩むであろう未来の、輝ける光が。

了

後書き

えーいきなりネタばらしをしますと、「序」で一つ紹介を省いた資料があります。

おおぞら

宙 出版の『おジャ魔女どれみメモリアルアルバム』の、シリーズ構成・山田隆司氏とプロデューサー・関弘美氏の対談において。

関●クラスメートはみんな私の同級生ですね。アルバム見ながらどこか一文字変えるとか。とにかくその子に関して覚えている限りを思い出して行って、そこからこれはというものを描いていたんだよね。

山田●そうそう。そんな感じで。僕とか五十嵐さんはポツポツとしか思い出せなかったんだよね。だから、第1シリーズはどれみ・はづき・あいこの3人以外は、関さんの子供の頃の友達だよね。

関●うん、全部ね。性格とかは（アニメとして）膨らませてはいるんだけど、そのキャラクターを取り上げるきっかけとなることは、かなりダブっていますよ。

サトジュンさんと言ってること違うじゃないですかー！ どっちなんですか関Pー！

……ああ、あと白倉伸一郎著『ヒーローと正義』内のフレーズも、微妙に引用してますね本文に。氏が『どれみ』見たら、誰も彼も〈わたしたち〉至上主義な作品なんて創ってないって、一発で分か以下略。

そんなわけで、矢田台詞集です。

わかってはいましたが、膨大すぎです。4年以上にわたる『どれみ』の歴史の重みを感じます。

60ページ越えとか余裕だと、最初から分かってました。だからオフセット本にする予定だったのに間に合いませんでした、二度とこんな分厚いコピー誌なんて作りません。

もっとも、PCゲーム『おジャ魔女あどべんちゃ〜ないしょのまほう』や、キッズステーション&プレステ等のどれみゲームでの矢田の台詞は確かめられなかったのも、実は本書で100%じゃないです。

……ああ、なかよし連載の、たかなし♥しずえ氏著のコミカライズ版も、単行本化されてない話が多く台詞採取できませんでした。もっとも4冊出てる単行本を読む限りクラスメート自体登場頻度は低くて、矢田の矢の字も出てこないのですが。小竹くらいしかいなかったような？

果てさて、どうしましょう？ 台詞集は台詞集で、面白い試みだと思っています。

例えば『Yes!プリキュア5』シリーズの、皆も知りたい私も知りたいサンクルミエール通信編集長・増子美香、続けて読めばマスコミかつ！さんの全台詞集とか、結構あっさりまとまるのではないのでしょうか。それはそれで寂しいけど。

ああ、でもだったら『ふしぎ星の☆ふたご姫』シリーズの、プリンセス・ミルロ全台詞集なら行けそう。勿論コミック版のミルロさま込みで。ああ、チームサンバのアスリ(一)全台詞集なら楽です、確か全台詞集めても15秒くらいだっただけ聞いたし。ああ涙。

でもいつも出してるパターンの、『フレッシュプリキュア!』×『仮面ライダーディケイド』な小説本も書きたいので、まあ考えてます。いや今のところ、万人に勧められる面白さですよ、フレプリ。

どうでしょう、どれみ無印〜明日のナージャ〜プリキュア5GoGo!の、10年間の世界を巡る旅とか。当然ディケイド風にリ・イマジネーションした、パラレル世界の旅ですよ。ああナージャだけは違います、「超ナージャビギニング」と題し、電王みたいにオリジナルキャスト出します！（笑）

戯言はともかくも、これからも頑張りたいと思います。よろしければ、お付き合いくださいな。

馳川 HTB

奥付

『矢田まさるを一生楽しむ本〜矢田まさるほぼ全台詞集〜』

2009年05月05日 第1版発行

2018年02月14日 第3版ネット公開

文・構成：馳川 HTB

編集・発行：別冊！勝手解釈

E-mail：htbc_proc@yahoo.co.jp

URL：http://katte-kaishaku.com/

印刷：コピー本(EPSON CC-570L)

「何がですか？」
「別に」
「……ガキっぼいから嫌だ」
「私の先生。——ブス」
「うるさいうるさいうるさいよっ!!」
「言ったって、本当のこと言ったって信じてくれないじゃないかよ！
畜生、先生に何がわかるんだよ！ バカ、バカ！ 嫌いだ、大っ嫌いだ！」
「ったくあんなダセエグッズ買いやがってよ……」
「なくなっちゃったものが何かは知らねえけどさ、それが本当に必要なものなら、
俺だったらバイトしてでも手に入れるな。それでもダメなら土下座でも何でもして手に入れる。
ま、お嬢様の藤原には無理か」
（腰……抜け……た）
『マジョリカマジョリカマジョリカマジョリカマジョリカマジョリカ』
「辛気臭いし、前髪も一直線だし。確かに、小泉ってブスカもな」
「こんなくだらない授業やってらんねんだよ」
「中山、ずっとうつむいて、全然何にも描けなくてさ。そういう気持ち、わかると思ってたよ！」
「ったくメンドクせえなあ……」
「おめえこそ何なんだよ」
「悪いが一曲吹かせてもらうぜ」
「はあ……。お前、それでも監督か？」
「やるよ。でも、誰にも秘密だから」
「誰にも秘密だって約束したのに！ お前が飛鳥に話しちゃったからだろ？」
「俺も、探すよ……お、俺が投げたんだから」
「これは男と男の問題なんだよ」
「お前不器用そうだからな、ケーキ作りは無理だろ？」
「だったらどっちが上手く作れるか、勝負しようぜ？」
「だから長えって」
「俺はケンカに武器は持たねえ主義なんだ」
「スポーツ万能なこの俺に任せれば問題ねえぜ！」
「今頑張らなきゃいけねえのは、俺たちのほうだろ。見本はいいからさっさと教えろよ」
「こんなもん……邪魔だ！ おおおりやああ！」
「フッ、俺に勝とうなんて百年早えんだよ」
「バレンタインが嫌いなのは、1年の時藤原を傷付けたからだ。サンキュー」
「うん……誕生日、おめでとう」
『がっきゅ〜う`ん`こ』
「保健室に運んだほうが早え！」
「誰もお前のこと忘れてたりしねえよ。それに、学校の奴らだって、
そのうち病院に押し掛けてくるぜ？」
「俺今ペットで新しい曲練習してるんだ。俺がその曲吹けるようになるのと、
お前が元気になるとどっちが早いか、競争しようぜ？」
「別に、トランペット吹きたかったから吹いただけ」
「中山に土産買ってやりてえんだけど、何買ったらいいかわかんねえんだ。ちょっと付き合えよ」
「興味ねえ」
「宮前、早く行け！」
「何故自分でもんを信じないんだ。藤原の人生は藤原のもんだ。家族や友達が、
とやかく言うもんじゃない。後悔しないためにも、お前自身が決めるもんだと、俺は思うぜ」
「なあ藤原、バイオリン持って来いよ！」
「なあ藤原……俺とお前は、中学が違って、今まで通り、幼馴染みで変わらないと思うぜ」
「ああ」